

# ツールキット： 危機下および 強制避難の状況下で 早すぎる結婚(児童婚)が行われる 背景・文脈に関する分析

UNHCRとプラン・インターナショナル

2023年12月



# 目次

略語集	3
<b>セクションA:本ツールキットについて</b>	<b>4</b>
概要	4
本ツールキット利用対象者	4
ツールキットの使い方	5
ツールキットの基礎となる指針	5
交差性	5
女の子の視点に立つ	5
害を及ぼさない	6
社会生態学的モデル	6
WWNK-CM:要約	7
主な参考文献	10
<b>セクションB:背景・文脈の分析</b>	<b>11</b>
ステップ1:文脈分析の対象範囲を決定する	11
1.1 決定の枠組み	11
1.2 対象決定手順	13
1.3 目的と調査で行う質問を決定する	14
1.4 調査範囲を開発する	15
1.5 中核チームを形成する	16
1.6 予算と作業計画	17
1.7 開始時のワークショップ	18
ステップ2:早すぎる結婚に関する文献レビューの実施	19
2.1 調査の範囲を確定する	21
2.2 文献検索	21
2.3 文書追跡、取り込み、検証	21
2.4 一次データの収集を伴う/伴わない文献レビュー	22
ステップ3:一次データの収集	24
3.1 倫理的配慮	24
3.2 リスク評価・倫理審査委員会	25
3.3 データ収集ツールの選定と開発	27
3.4 サンプリング	30
3.5 データ収集チームを訓練する	31
3.6 データ収集	33
ステップ4:データの分析と検証	34
4.1 調査結果の整理	34
4.2 検証ワークショップと内省的分析	35
ステップ5:公開・発信	35
<b>セクションC:ツールとテンプレート</b>	<b>36</b>
詳細な説明とリソース	37
参考文献	38
用語集	39

# 略語集

ACASI	コンピューター音声支援型自計式調査
AOR	担当地域(分野)
CASI	コンピューター支援型自計式調査
CEFMU	早すぎる強制された結婚・婚姻
CP	子どもの保護
CPiE	危機下の子どもの保護
FGD	フォーカス・グループ・ディスカッション
FPAR	フェミニスト参加型行動調査
FSL	食料安全保障と生計
GBV	ジェンダーに基づく暴力
IDP	国内避難民
IRB	治験審査委員会
KII	重要な情報提供者へのインタビュー
M&E	モニタリングと評価
MHPSS	メンタルヘルスおよびこころのサポート
MOU	合意事項の覚書(基本合意書)
OCHA	(国連)人道問題調整事務所
PSEA	性的搾取・虐待からの保護
SRHR	性と生殖に関する健康と権利
TOR	権限の範囲
UNFPA	国連人口基金
UNHCR	国連難民高等弁務官事務所
WHO	世界保健機関
WRC	女性難民委員会
WWNK-CM	早すぎる結婚(児童婚)について知るべきこと

# セクションA: 本ツールキットについて

本ツールキットは、人道危機における早すぎる結婚(児童婚、以下、児童婚)の実態と、現行の人員・プログラムがそれに対してどの程度対応できているかをより深く理解するため、児童婚が行われる背景・文脈を分析する上での指針とさまざまな方法を示している。児童婚に関する文脈分析を実行する主な目的は、既存のプログラムと活動への情報提供とともに実際の活動に基づいた今後の防止策と対応策の明確化である。文脈分析は、関係者と資金提供者が児童婚の規模や影響に基づいて適切な優先順位をつけて、提言活動が行われる上でも役立つ。

児童婚は、GBVの一形態であり、伝統的、文化的、宗教的、あるいは先祖伝来の慣習と関連している場合が多いことから、この慣習/行動/考え方について議論しようとする自体が、非常に注意を要するものである場合が少なくない。そのため、職員がこのデリケートな問題を安全かつ倫理的に扱うための追加の指針が求められていた。

様々な人道支援の状況で活用できるよう設計された本ツールキットは、それぞれの状況下で可能な対応、リソース、エビデンスに応じて文脈分析を行うために、段階的アプローチを提供している。

本ツールキットは、特に難民と避難民の状況に特有な要素に重点を置き、質の高い倫理的なデータ収集、文献レビュー、ニーズ評価、ジェンダー分析の実施方法に関する既存の指針と基準を補完することを目的としている  
(**主要参考文献を参照**)。

本ツールキットの内容は、例えばアプローチ方法など様々な評価や調査に取り入れて活用でき、複数の機関による文脈分析や人道ニーズ概要の一環として使用できる。また、児童婚について単独で文脈分析を行う際にも活用することができる。

## ツールキットはセクション毎に構成されている:

### セクションA

児童婚の文脈分析を行う上で必要な背景情報を提供する。

### セクションB

文脈分析の実施手順を詳細に説明する。

### セクションC

手順で使用する既存のツールとリソースを示す。

## 概要

本ツールキットは、4つの**指針**(「交差性」、「女の子の視点に立つ」、「害を及ぼさない」、「社会生態学的モデル」)から成る概念的枠組みを用いている。文脈分析のアプローチ方法とデータの扱い方は、これらの原則に基づいて決定する。

また、**WWNK-CMツール**もあり、これによって収集する必要があるかもしれない情報が明らかになり、それらを整理してまとめる。このツールは、児童婚の慣行をめぐる社会生態学的領域のあらゆる局面だけでなく、特定の危機や人道対応に特有な要素も考慮しており、重要な情報源に導いてくれる。

児童婚は複雑な慣習であり、GBVの一形態である。児童婚を促す要因は実に様々である。こうした要因は、住民を構成する小集団や、同じ集団でも地理的位置の違い、あるいは危機的状況のどの時点かによって変化する可能性がある。

文脈分析の目的は、児童婚に関する家族と女の子の意思決定に影響を及ぼすリスク要因と保護要因を把握することである。この分析は、現在のプログラムや活動の能力、および職員の知識、考え方、行動の評価に活用することもできる。分析は時とともに変化するため、戦略を決定する根拠として正確性と信頼性を維持するには、定期的に更新する必要がある。

## 本ツールキット利用対象者

本ツールキットは、あらゆる種類の人道危機で活動する人道支援関係者を対象としており、難民や避難生活に特有な要素に特に重点を置いている。特定の状況下で行われる児童婚を理解し、その影響下にある女の子とその家族のための活動をどのように始め、あるいは改善するべきかを知りたい職員が対象となる。

本ツールキットは、CPおよびGBVの関係者を念頭に開発されたが、教育、保健、またはFSLのセクター等、幅広く応用できる。

文脈分析の完了後は、調査結果を予防対策に的を絞った今後の活動に活かすとともに、人道支援活動と一体化した児童婚の抑制策を行うためにも活用すべきである。

## ツールキットの使い方

本ツールキットには、文脈分析を行う際に使用・活用できるツールとテンプレートが多数含まれている。**セクションB**では、文脈分析プロセスの各ステップに関連するツールがわかりやすく記載されている。全てのツールとテンプレートの一覧は**セクションC**に記載されている。

### ADDITIONAL RESOURCES ON YOUTH INVOLVEMENT

Adolescent participation in UNICEF monitoring and evaluation, UNICEF, 2019, [available here](#)

Standards for enhancing meaningful engagement of youth in evaluation, UNFPA, EvalYouth Global Network and Global Parliamentarians Forum for Evaluation, 2023, [available here](#)

ツールキット各所に、さらに詳しい情報や追加の説明へのリンクが張られており、青い枠で囲まれたボックス内に表示されている。

また、セクションBの各所にチェックリストとヒントも記載されている。



**ピンク色で表示された**箇所には、ハイパーリンクや埋め込みツールが埋め込まれており、クリックしてアクセスできる。

また、セクションBのページ右側に記載されたリストで、分析手順のどのステップにいるかを把握することができる。

**STEP 1**  
**STEP 2**  
**STEP 3**  
**STEP 4**  
**STEP 5**

## ツールキットの基礎となる指針

児童婚に関する文脈分析を行う際には、職員が考慮すべき主要分野を踏まえた以下の4つの指針を参考にすること。これらの指針は、プログラム活動とFPARの枠組みに基づいて策定されている。FPAR枠組みを各自の活動に活かす方法について、詳細は[ここ](#)をクリック。

### 交差性

交差性の観点を持つフェミニスト理論は、あらゆるコミュニティや国ではジェンダーによる力の格差が社会的相互作用、人間関係、制度の構築に大きく影響していると主張する。この理論により、様々な抑圧のシステムが性差別とどう重なり合い、相互作用し、人びとの人生の選択、リソースや機会へのアクセスを決定づけているかを検証することが可能になる。つまり、あらゆる社会・ジェンダー規範に埋め込まれた力の力学と社会的階層を考慮に入れると、それが児童婚や意思決定とどういう形で交差しているかがわかるのだ。ジェンダー不平等だけに注目するのではなく視野を広げることで、カースト、年齢、人種、民族、障害、性的指向といった他の要因とジェンダーがどのように交差して、特定の女の子たちの疎外をすすめる、児童婚に対する彼女たちの脆弱性を高めているかを理解できるようになる。交差的アプローチを取ることで、児童婚が行われる要因を深く理解し、今後進むべき道を決める際に状況に応じたアプローチが採れるようになる。交差性の視点を通して活動を組み立て、各コミュニティの知識と能力を尊重することで、女の子とそのコミュニティが望む解決策に注力することができる。私たちは、把握・設計・実施というプロセスの支援はできるが、各コミュニティが有害な規範を変えようという当事者意識を持てるようにするには、安全な空間を許し、与える必要がある。

文脈分析を行う1つの目的は、差別的な力の不均衡(関与したチーム内にある偏見や力の不均衡等)を壊し、作り直そうとする動きが成果として生まれることである。

それは、使用したプロセス、期待された成果及び行動に関する提言全てにおいてである。こうすることで、各個人や政治、制度の力がジェンダーに基づいて生み出される状況に挑み、転換を図る。提言は交差性の視点で行い、複雑に重なりあう形で差別が行われることを十分に考慮し、不平等を再生産しないよう、また、交差しあう様々な形態や種類の差別に確実に言及するようにしなくてはならない。

### 女の子の視点に立つ

世界中で思春期の女の子は、日常生活に影響を及ぼす不平等な力の力学に直面している。これは、彼女たちが必要な支援を得たり、生活の様々な局面の決定を自身で行う能力に影響を及ぼす。こうした構造的不平等は、彼女たちが自身の権利を主張する能力、例えば、意見に耳を傾けてもらう権利、質の高い教育や情報および支援サービスやコミュニティスペースを利用する権利、自身の身体に関する決定を行う権利、暴力のない生活を送る権利などの形として現れる。危機下や避難時には、こうした不平等がさらに顕著になる。女の子は危機の最前線に立つことがあまりにも多い。だが、彼女たちの声は軽視または無視され、彼女たちの安全、経済的な安定、教育、健康、ウェルビーイングは脅威にさらされ、保護システムやセーフティネットを利用する機会もほとんどない[1-5]。

女の子を対象としたプログラムや支援の設計・提供に彼女たちを参加させられなければ、プロジェクトは成果を上げられず、リソースの無駄遣いに終わるリスクがある。女の子を関与させることができないと、活動や行いの安全性が低下しかねず、これによって、児童婚を容認・助長し、延々と継続させる有害な規範と考え方が強固になる可能性がある。これが最終的に、女の子の脆弱性を高めることになる。女の子に力を与える機会を逃すことは、私たちが自ら定めた指針や最低基準、影響を受ける人びとへの説明責任に反し、ひいては私たちの行動がむしろさらなる害を及ぼすことにもなりかねない。



女の子を巻き込むことで、変化をもたらせる、影響力と価値のあるプロジェクトを開発できる可能性が高まる。それは、その支援の「何を」「どこで」「いつ」「なぜ」「どのように」行うかを特定する際に、可能な限り積極的に女の子を参加させるアプローチである。女の子を当初から関与させることで、彼女たちはコミュニティで起きる前向きな変化の一部となる機会を与えることができ、彼女たちは、自身の生活における変革の担い手となる。また、ユースのエンゲージメント(活動に参加し、自らと人びとの意識・行動を変えていくこと)は女の子の個人の成長を促し、スキルの向上とエンパワーメント(自分の人生を切り開く力を高めること)、さらに権利を主張し、声を上げる意欲の向上につながる。

### 害を及ぼさない

「害を及ぼさない」という原則は、いかなる行動も関係する人びとへの支援や保護に悪影響を及ぼさないようにすることを意味する。児童婚に関する文脈分析を行う際には、どんな活動であれ、全ての思春期の女の子に及ぼす影響に特に注意を払うべきである。また、兄弟姉妹、保護者、家族、あるいはコミュニティの男性や男の子、現在のプログラムや職員、組織など、彼女たちを支える環境から二次的に生じる可能性のある影響についても考えるべきである。

さらに、「害を及ぼさない」原則では、コミュニティとの交流や共に計画した活動が有意義で、必要とされ、参加型であるかを厳しく評価することが求められる。

また、既存のコミュニティの慣行や知識を活用し、可能な場合には、コミュニティの能力強化とコミュニティへの説明責任の強化も求められる。つまり、一次データを直接収集することが必須であり、データ収集の過程で女の子やその家族、職員が危害や反発を受けるリスクにさらされないことを保証することである。さらに、調査結果を公表または共有する際には、全ての参加者を特定不可能な状態にしておく必要がある。

### 社会生態学的モデル

社会生態学的アプローチでは、個人、関係性(家族や同世代の仲間)、コミュニティ、社会、危機という複数の層から成る環境要因と個人との複雑な相互作用を通して(人間の行動を)総合的に考えるプロセス設計が必要となる。こうした複数の層は互いの中に内包されていて相互に関連し合っているが、実際には相互に関連しているが故に、各層を明確に捉えるのは容易ではない。ここでは、人道危機における児童婚に焦点を当てているため、より広範な人道環境も1つの層として考慮することになる。それにより、人道支援が児童婚のリスクに与える影響、あるいは児童婚を防ぐ保護要因に与える影響を理解することにつながる。社会生態学的アプローチを用いることで、子どもの発達・ウェルビーイングに影響を与える要因と相互関係を明確にすることができ、特定の問題に対して、より総合的で多層的な考え方でアプローチすることが可能になる[6]。

社会生態学的モデルは、以下の点に基づいている。

- 思春期の若者は、自身と仲間の保護とウェルビーイングのために積極的に参加する。
- 思春期の若者は主に家族の中で育つが、この層には他の近親者が含まれることもある。
- 家族はコミュニティに属す。
- コミュニティは広域な社会を形成する。
- 人道支援関係者の存在は、新たなリスクと共に保護要因もコミュニティにもたらす。

児童婚という問題に直面している個人に焦点を当てるのに有効なため、私たちはこのアプローチを採用する。このアプローチでは、対象となる女の子を支援・保護するために、様々な問題や可能な軽減策、解決策を検討する。また、児童婚の意思決定に影響を与える様々な要因を総合的に把握することで、他のセクターと連携・調整して多層的で一体化した行動がとれるようになる。

児童婚の阻止と対応に関する長年の調査と活動により、セクター横断的かつ多層的なアプローチの根拠となるエビデンスが構築された [7-10]。入手可能なプログラム評価について最近行われた分析では、社会的・経済的に最も困難な状況下にある女の子の場合でも、個人、コミュニティ、サービス提供、政策の各レベルにまたがる活動が、結婚を遅らせ、思春期の妊娠を減らす上で有効であることが分かった [8]。

児童婚撲滅のための唯一の解決策というものはない。しかし、セクター横断的かつ包括的な戦略を用いることで、この慣習の撲滅に具体的な成果を上げることができる。

児童婚による権利侵害に、単独で取り組むのではなく、法律や政策の変更、利用できるサービスの提供と拡充、家族やコミュニティの協力、女の子のエンパワーメント支援といった、より広範な枠組みの中で取り組むべきである[8-11]。

長期的な人道支援よりも制限があるとしても、このアプローチを文脈分析に活用することで、実際にある不足や矛盾、課題に関するエビデンスがさらに集まり、そうした課題に人道支援プログラムで取り組むことが可能になる。

### WWNK-CM:要約

**WWNK-CM**ツールは、異なる角度から得られる情報を通して考え、文脈分析を行う際に役立つ。状況分析やジェンダー分析など、既に手元に情報がある場合もあるが、他のセクターから収集したり、対象を絞った一次データの収集が必要な情報もある。

このツールは、社会生態学的モデルを応用して構築されており、私たちが収集する必要があるような情報を得て体系化することを目的としている。このツールを使うことで、児童婚を取り巻く状況を把握するために、個人、家族、社会、人道支援の各レベルにある様々なリスク要因と保護要因が明らかになる。また、社会や文化にある有害な規範およびジェンダー規範を明らかにし、危機と対応の結果として生じる新たなリスクと機会を把握する上でも役立つ。以上により、このツールを使うことで児童婚という慣習の全体像をつかむことができるようになり、特有の要因を把握して不足している情報を見つける上で役立つはずである。

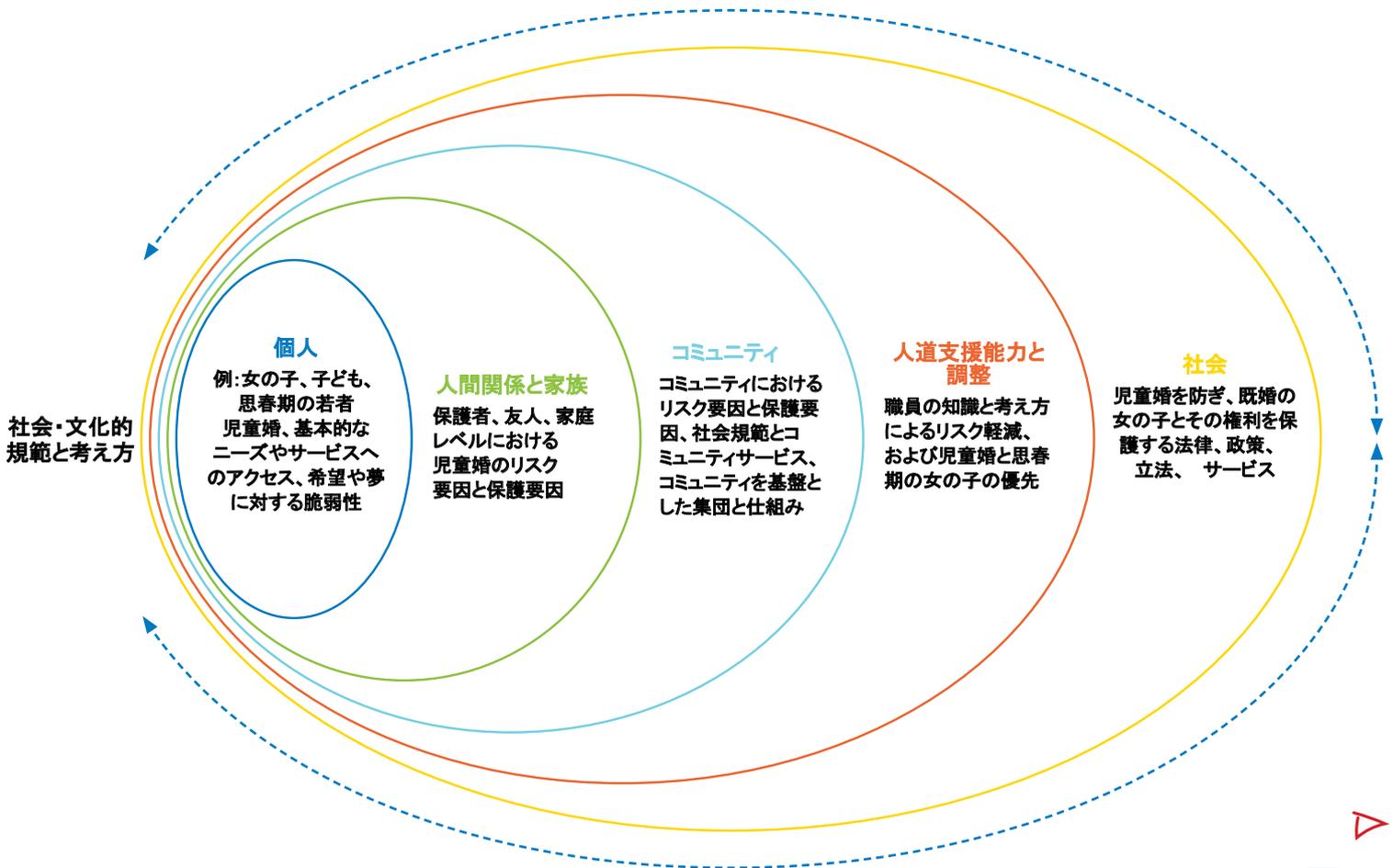


表:WWNK-CMツールの概要版

レベル	WWNK-CM
<b>個人</b> <b>例:女の子/子ども</b> 児童婚、基本的なニーズやサービスへのアクセス、希望や夢に対する脆弱性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童婚に対する子ども、思春期の若者、その家族の脆弱性の概要。</li> <li>● 女の子は<b>保護に関してどんな不安を抱えているか</b>? 男の子の不安とは違うのか。</li> <li>● 児童婚のリスクにさらされているのは<b>誰か</b>。また、その理由は。</li> <li>● 児童婚の<b>既婚者</b>または結婚経験のある者は誰か。なぜ結婚したのか。結婚は自発的なものか、それとも他者からの強制によるものか。それらの女の子がサービスや支援を利用する際に直面する制約や障壁は何か。</li> <li>● 児童婚が、女の子(および/または男の子)、早すぎる妊娠および/または母であること、教育、権利や登録へのアクセスに及ぼす<b>影響</b>。</li> <li>● <b>思春期の若者</b>、特に女の子の参加と<b>意思決定力</b>。</li> </ul>
<b>人間関係と家族</b> 保護者、家庭レベルにおける児童婚のリスク要因と保護要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 結婚相手(<b>配偶者のプロフィール</b>)はどんな人か。</li> <li>● <b>保護者が児童婚を強いる動機</b>は何か。例えば、保護者や配偶者の収入創出機会など基本的なニーズを満たすための家庭のFSLなど。</li> <li>● <b>家庭環境の安全性</b>。</li> <li>● 社会規範、ジェンダー規範:男の子とは異なる、女の子に対する<b>期待と価値観</b>(教育、雇用、結婚、人間関係に対する保護者の態度を含む)。</li> <li>● 結婚を理想化する、結婚の慣習に従う、あるいは、従わない同世代の仲間の存在など、児童婚を支持あるいは反対する<b>意思決定に仲間が及ぼす影響</b>。</li> </ul>
<b>コミュニティ</b> コミュニティにおけるリスク要因と保護要因、社会規範とコミュニティサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>結婚を遅らせることのメリットや、結婚に代わる女の子の選択肢に関する情報へのアクセス</b>。</li> <li>● <b>コミュニティ指導者層</b>(コミュニティ、行政、宗教的指導者)が児童婚に関わる、または阻止する動機と見返り。</li> <li>● 児童婚から女の子を守るための<b>コミュニティの能力と考え方</b> - 例えば、支援体制。</li> <li>● 児童婚のリスクのある、あるいは婚姻歴のある女の子とその家族を支援する<b>コミュニティサービスの能力とあり方</b>。</li> <li>● 第二次性徴期、月経等、思春期や成人期への移行に伴う体の変化に関連する慣習として、児童婚を受け入れる考え方に、<b>社会規範・ジェンダー規範と文化的慣習</b>が与える影響。</li> </ul>
<b>人道支援能力と調整</b> 職員の知識と考え方によるリスク軽減、および児童婚と思春期の女の子の優先	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状と危機以前の<b>児童婚の慣行と意思決定の傾向</b>に見られる変化。</li> <li>● 支援の提供や児童婚に関連するリスクを特定・対処し、若い女の子の既婚者・妊婦・母親を支援対象に含める<b>人道支援の対応・調整能力</b>。</li> <li>● 全ての思春期の女の子を支援するために必要な<b>プログラムと従事者の態度と知識</b>。</li> <li>● <b>婚姻歴のある女の子</b>がサービス・支援を利用する際に<b>直面する障壁</b>とは何か。</li> <li>● 児童婚の事例における<b>難民保護手続きの状況</b>。</li> <li>● セクター全体および資金提供者・政府の間で、児童婚への取り組みを保護に関する主要課題として<b>優先し、可視化する</b>。</li> </ul>
<b>社会</b> 法律、政策、立法、サービス、および環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国および地域レベルでの<b>児童婚に関する政策および法律</b>(法定婚姻年齢およびその例外、性的同意の法定年齢、既婚および妊娠した女の子の教育へのアクセスなど)。</li> <li>● <b>難民/避難民コミュニティのための法律・権利</b>の法的枠組みと施行。</li> <li>● 児童婚を撲滅するための<b>国の組織と行動計画の特定</b>、およびその実行能力。</li> <li>● <b>公式/非公式の婚姻登録および式の手続き</b>、主な強みと欠陥。</li> <li>● (児童)婚姻と出生登録の<b>状況、情報管理システム</b>。</li> </ul>



Hoodo(38歳)が6人の子ども  
皆に食事を与えられる日は  
ほとんどない。

この枠組み、すなわち項目毎に報告書の調査結果をまとめる必要はないが、情報を分析する際にこの方法を用いることで、対象集団に即したプログラムのための戦略や取り組み方を導き出すのに役立つだろう。

上記は、WWNK-CMツールの要約版であり、**完全版はこちらで確認できる**。WWNK-CMツールに列挙されている**全ての情報を収集する必要はない**。全ての情報が、それぞれの状況やその時点に合う訳ではない。このツールの目的は、計画立案を支える指針となること。例えば、教育や生計、職員研修や変革、児童婚の影響を受けた男の子等、関心のある分野や情報が不足している部分、または既知の課題など、焦点を絞って活用することができる。

同様に、より包括的な文脈分析を行う余裕がある場合は、全ての領域を詳細に調査することもできる。指針として、また計画立案の参考として活用されたい。

右の四角いチェック欄は、欠けている重要情報がないかの洗い出しに利用できる。このツールを活用して、主な目的や調査の重点分野、すでに入手済みの情報、欠けている情報をチームで熟考してもらいたい。

WWNKCMツールを使用する際の参考となる事項は以下の通り:

- 社会規範・ジェンダー規範は、社会生態学的モデルの全ての領域に浸透している。それらは1つの領域に分けることはできない。これを踏まえてプロセスをどう構築していきたいか熟考すること。
- 危機以前と現在を比較して、意思決定のパターンや早すぎる結婚の規模に変化が認められるか。
- 児童婚の意思決定や、結婚に関連するその他の慣習や規範(第二次性徴期、月経、成人としての第一歩とされるその他の出来事に関連する慣習等)を推進する要因にはどのようなものがあるか。また、危機が始まって以来、それらの要因は変化したか。
- ジェンダーによる役割や責任、意思決定権、そして女の子と男の子に対する教育等のサービスへのアクセスについて考えること。
- 児童婚を防ぎ、対応するために、CP、GBVなど様々なセクターがどんな能力、知識、リソース、関心を持っているか。セクター内で児童婚への取り組みを推進する上で、障壁となるものはあるか。
- 武装勢力や武装集団に関わりのある子ども、あるいは家族が離散した子どもと児童婚の因果関係など、CPIに絡んだ形で行われるGBVのリスク。

**注意!** 思春期の若者は均質な集団ではない。常に交差的な視点で考え、「**集団Xは...と比較してどうか**」と自問すること。

例えば

- 女の子と男の子の比較
- 多様な性的指向と性自認を持つ人びと
- 思春期年少期(10~14歳)と年長期(15~19歳)の女の子
- 思春期年少期(10~14歳)と年長期(15~19歳)の男の子
- 婚姻歴がある女の子(例:結婚、離婚、または夫を失った経験のある女の子)や若い母親と、未婚または母親でない女の子との比較
- 難民、移民、避難民と受け入れコミュニティとの比較
- 様々な障害を持つ子どもや思春期の若者

## 主要参照文書

このツールキットは、3か国で試験的に実施され、そこで得られた教訓が最新版の作成に生かされている。以下は、このツールキットの作成に使用された主な参考資料の一覧である。セクションCには、文脈分析の設計と分析に役立つ追加リソースがまとめられている。

プラン・ インターナショナル	<b>The Adolescent Programming Toolkit</b> <a href="#">リンク</a>
WRC、UNFPA、 ユニセフ	<b>A Practitioner’s Guide to the Ethical Conduct of Research on Child Marriage in Humanitarian Settings</b> <a href="#">リンク</a>
Save the Children	<b>The Gender and Power Analysis Toolkit (GAP)</b> <a href="#">リンク</a>



学校でリーダー的存在のClarita(14歳)、  
Sonia(20歳)、Shirley(17歳)

# セクションB: 文脈分析の実施

文脈分析は調査の一形態である。迅速かつ限られたリソースで実施することも、大勢が調査に参加してより包括的に実施することもできる。本書は、文脈分析を行う際に考慮すべき重要な点を押さえながら、児童婚がどのように行われ、特定の危機的状況や避難状況においてどんな影響を受けているかを段階的に探る手引きとなっている。

文献レビューのみを行うこともできるし、リサーチギャップ(先行研究に不足している部分やさらなる研究が必要とされる部分)を特定し、利用可能なリソースと能力を活用して、思春期の若者、コミュニティ関係者、または現場で活動に従事する者から直接一次データを集めて、文献レビューを補完することもできる。

このセクションでは、児童婚に関する文脈分析を行うための手順を簡単に紹介する。この手順は、情報の計画・収集・分析を行う際に、児童婚に取り組むプログラム活動、支援の提供、提言活動、職員の能力開発についてそれぞれの状況に応じて豊富な情報に基づいた決定を行う一助となる。以下では、5つのステップを順を追って説明する。ステップ3は、一次データの収集を計画している場合にのみ必要となる。

- **ステップ1** – 文脈分析の対象範囲を決定する
- **ステップ2** – 文献レビューを実施する
- **ステップ3** – 一次データを収集する \*省略可能\*
- **ステップ4** – データの分析と検証を行う
- **ステップ5** – 文脈分析の結果を公表し、発信する

この手引きでは段階的で直線的なプロセスの形で示されているが、実際には文脈分析の設計と実施は直線的に進まない場合が多い。ここに挙げた各事項を考慮する必要はあるが、この通りの順序で行う必要はない。また、プロセスが先に進むにつれてデータや情報を入手できる可能性がはっきりしてきたら、前のステップに立ち戻る必要が生まれる場合もある。

## ステップ1: 文脈分析の対象範囲を決定する

文脈分析は、利用可能なリソースと能力に応じて行う。文脈分析を迅速に行うこともできるし、一次データを収集して詳細な分析を行うことも可能だ。このセクションでは、それぞれの要件に最適なアプローチを決定するのに役立つツールを紹介する。

以下は、様々な事情や制約に応じて、さらに詳しく文脈分析を行える方法を概説する。以下に示す4つの段階については、後続のステップで詳しく説明する。文献レビューを行う第1段階は、過去12か月以内に児童婚に関する文献レビューが実施された場合、また危機や文脈に大きな変化がなかった場合を除き、省くことはできない。

## このステップで利用可能なツールとテンプレート:



- ツール1. 「知るべきこと」枠組み
- ツール2. 調査質問例
- ツール3. 予算に関する考慮事項
- テンプレート1. TOR
- テンプレート2. 活動計画
- テンプレート3. 予算
- テンプレート4. 中核チームの特定

### 1.1 決定の枠組み

以下の表では、どの段階まで進めるのが適切かを判断する上で考慮すべき点を概説している。若年層と/または脆弱な集団から一次データを収集することを検討している場合は、倫理審査、手配、その他の特別な配慮にリソースや時間がかかる可能性が高いことを念頭に置き、一次データを収集するかどうかを決定する必要がある。倫理審査に関する詳細は、**ステップ3**を参照のこと。

Clementine, 19歳、マラウイ



表:文脈分析法の概要と特徴

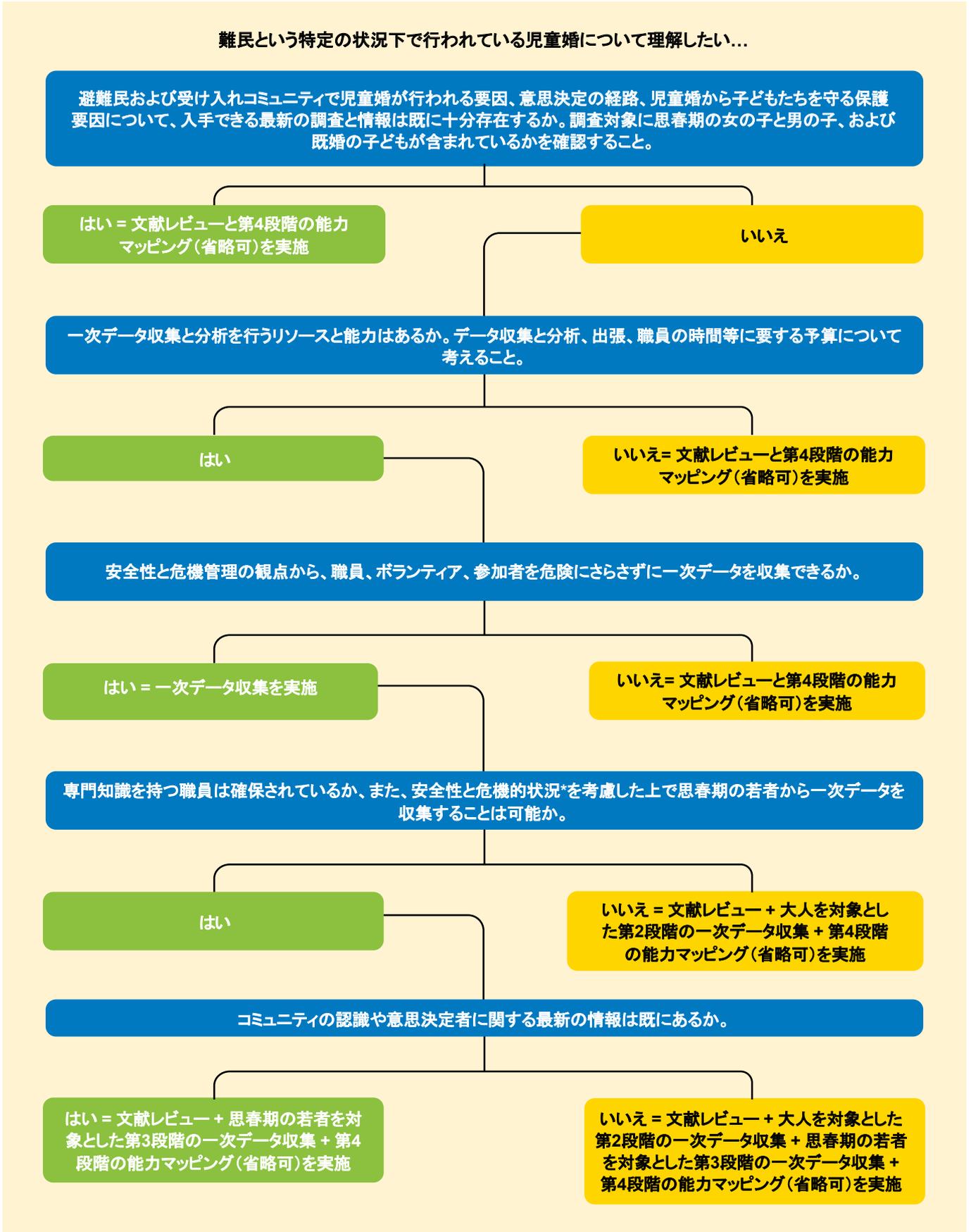
段階#/方法	第1段階:文献レビュー	第2段階:大人を対象とした一次データの収集	第3段階:思春期の若者を対象とした一次データの収集	第4段階:CPとGBVIに対する対応能力のマッピング
重要度	必須	必要に応じ追加	必要に応じ追加	必要に応じ追加
適用	全ての文脈分析の基礎となり、必要なリソースが最も少ない。	児童婚の意思決定者となり得る、女の子の周囲の、女の子に影響を及ぼす人びとから、情報を収集してリサーチギャップを埋めることができる。事態が深刻、または非常に注意を要する状況下で、思春期の若者との接触が制限、または危険な場合は、児童婚をした19~25歳のユース女性から代わりに聞き取りすることも検討できる。	参加型データ収集から思春期の若者に関する二次データがほとんど得られない場合、彼らが直面している問題に対する彼らの考えと解決策について、直接彼らと話すことが望ましい。これには、リソースとともに強力なセーフガーディングとリスク軽減プロセスが求められる。	実際の対応能力に即した文脈分析を行うため、主なセクターの中で能力評価をすることが望ましい。これは、職員の能力開発や提言活動の提言やフォローアップ活動を定める際にも役立つ。
危機の段階	あらゆる局面/時間	最小限の基本的救命サービスが整っている*	最小限の基本的救命サービスが整っているが、それが思春期の若者向け/若者にやさしいとは限らない*	最小限の基本的救命サービスが整っており、最低6か月間サービスが稼働している
必要な資金源	低 必要なリソースは少ない;主に職員の時間	中 一次データ収集を支援するための中程度のリソースとスキルが必要;技術職員による詳細な分析のための時間;コミュニティ検証ワークショップ/フィードバック	中 子どもと思春期の若者に対する一次データ収集を支援するための中程度のリソースとスキルが必要;技術職員による詳細な分析のための時間;コミュニティ検証ワークショップ/フィードバック	高 職員・協力者による一次データ収集を支援するためのリソースおよびスキルが必要;技術職員による詳細分析のための時間;関係者向け検証ワークショップ
能力: 人的資源とスキル	中 データ分析の技術的支援	中 一次データ収集と分析の中心となる経験者 データ分析の技術的支援	高 思春期の若者を対象とする一次データ収集と分析の中心となる経験者 データ分析の技術的支援	高 一次データ収集と分析を技術面で職員の中心となっていた経験があり、児童婚のプログラムに必要なことを熟知した人材
入手可能な情報のレベル	限定的/広範な情報源で対応可能	既存情報はあがるが、包括的な最新分析はない	児童婚に関する既存情報は、思春期の若者との対話が限定的または皆無、もしくは古過ぎる恐れがある	能力やプログラムマッピングが古過ぎる、または限られている

\*告白から72時間以内にレイプの臨床管理が必要となるような告白があった場合、救命サービスがまだ整っていない状況で話を聞くのは推奨されない。データ収集を開始する前に、必ず参加者の状況を確認できるようにしておくこと。



1.2 対象範囲の決定手順

特に一次データの収集に関して、どの段階を踏むのが最もニーズに合うかまだわからない場合は、この樹形図が役に立つだろう。



### 1.3 目的と調査で行う質問を決定する

文脈分析の目的と調査の質問で使用する用語の意味を慎重に検討すること。必要に応じ、TOR等の文書内のどこかに定義を記載すること。

#### 1.3.1 目的

調査目的には、何を指して文脈分析を行うのかを明示し、各作業をなぜ行うのかを明確にすること。調査の主目的として、焦点を絞った明確で現実的な目的を1つないし2つ設定するのが望ましい。文脈分析の規模や範囲に応じて、主目的に付随する詳細な副目的を2~4つ設定することも可能である。

開口を広げず、本当に知りたいことだけを扱うようにすること。扱おうとするテーマが多過ぎたり、1つのテーマで扱う範囲を広げ過ぎたりしがちだが、これは調査の質を低下させる場合がある。質問を増やせば、収集すべきデータも増えるため、知りたいことを絞り込むようにすること。

明確で焦点を絞った、現実にも即した目的は、質の高い調査を行う上で最も重要な要素のひとつである。この段階では、以下の質問を参考にするとよいだろう。

- 文脈分析の目的は何か
- 検証すべき仮説があるか
- 何が起きているのかを調べる(記述的調査)のか、それとも、なぜそれが起きているのかを調べる(説明的調査)のか
- この調査を完遂するにはどんな情報が必要か、手持ちのソースでその情報を収集できるか

### 様々な文脈分析の目的の例

この文脈分析は...

- ナイジェリア北東部における紛争が、児童婚に関する意思決定にどのように影響しているのかを明らかにし、現金給付の取り組みによって、女の子とその家族が児童婚に頼らずに済む可能性を高められるか調査することを目的とする。
- エチオピア・ティグライ州で行われている児童婚への対応を改善するために、特に既婚の女の子と若い母親への支援に重点を置いた能力開発計画を、エビデンスに基づいて策定することを目的とする。
- バングラデシュのcockspavazalでのロヒンギャ難民対応において、適切に情報を提供し、状況に合ったプログラムを策定するべく、思春期の若者が直面する児童婚のリスクと保護要因の解明を目的とする。



Parmin\*(13歳)  
は、12歳の時に危  
うく結婚するところ  
だった。

ステップ1

STEP 2

STEP 3

STEP 4

STEP 5

#### 1.3.2 調査の質問項目

調査の質問を練り上げることは、有意義な調査を行う上で重要な要素だ。調査の質問は、プロジェクトの範囲を明確に示すものでなければならない。焦点の絞られた明確かつ適切な質問なくして、優れた調査はあり得ない。また質問を通して、調査プロジェクトの終了までに何を深く知りたいのかがわかるものでなければならない。調査の最後に質問に立ち戻り、その答えが結論で使える形が良いだろう。

調査の質問は、テーマを絞り込むのに役立つ。質問がなければ、調査は焦点が定まらず、データ収集も不必要で役に立たないものになる可能性が高い。調査プロジェクトの範囲は時間、リソース、職員の制約により決まるため、調査の質問を決める際にはこの点を念頭に置くこと。調査の質問によって、収集すべきデータと、そのデータを分析する際に使用する手法が決まることにもなる。したがって、質問の設定は、調査の手法とデータ収集ツールの開発と連携して行うことになる。

多くの質問に短い回答を返す形よりも、少ない質問にしっかりと回答の方が望ましい。調査で行う質問は3~5問程度に留めるのを推奨する。

調査の質問は、調査の目的に根差し、各文献レビューの特徴に合ったものでなければならない。また、入手できる情報次第では、文献レビュー後に調査の質問を修正することも必要になる。

プロジェクトの目的に応じて、質問は「何」、「なぜ」、「どれ」、「どのように」で始まる場合があり、質問は3タイプになる。文脈分析では、3タイプの全ての質問に対応する、基本的な質問例が作成される場合がある。

表:質問のタイプと目的の例

質問のタイプ	内容	例
状況描写	何が起きているのか/何が存在しているのか	マリの難民集団で思春期の男の子に見られる児童婚の広がりと彼らに及ぶその影響を調査する文脈分析。
関係性	2つ以上の事柄の関係	ニジェールの避難民キャンプと受け入れコミュニティで暮らす既婚の思春期の女の子の体験を調査する文脈分析。年齢、ジェンダー、避難状態、婚姻状態の関係性を調査する。
因果関係	原因となる1つ以上の事柄が結果として1つ以上の事柄をもたらす、または影響を与えているか	モザンビークのナンプラ地域のコミュニティで、サイクロンXが児童婚に関する意思決定に影響を与えたかを調べる文脈分析。サイクロンを原因とし、その結果として児童婚率が変化したかを調べる。

目的と質問の例	
目的	本調査は、深刻な食料不安に苦しむジンバブエのチレジ地区の特定のコミュニティに暮らす思春期の女の子のニーズと優先事項を理解する上で役立つ。全体的な目標は、児童婚に対応・防止するために女の子主導でコミュニティを基盤とするアプローチを各コミュニティに合わせて開発し、女の子、女性、そしてコミュニティをプログラムの支援を受ける存在から、自ら他者と深くかかわり自分の人生を切り開く能力を持つリーダーへと変えることである。この目的の達成に向け、本調査では混合手法による参加型の設計が行われている。
調査の質問項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● チレジ地区の特定のコミュニティに住む思春期の女の子のニーズと優先事項は何か</li> <li>● これらのコミュニティにおける児童婚の主な要因は何か</li> <li>● 思春期の若者とその家族のどんな資源や適応能力が、児童婚のリスクを軽減し、他の選択肢を広めるか</li> <li>● チレジ地区の既存のプログラムとサービスは、思春期の女の子のニーズにどのように対応しているか</li> <li>● 思春期の女の子が既存の思春期の若者向けプログラムにアクセス・利用することを妨げている障壁は何か</li> </ul>

また、以下のチェックリストに調査の質問事項を照らし合わせることもできる。

### 1.4 TORを定める

TORには、合意の得られたコンセプトとアプローチがまとめられている。参加を求められる全ての者の適切な役割と責任、タスクの目的、調査方法、倫理、成果物または成果、最終報告書の公開計画等に関するスケジュールの明確化に役立つ。TORに基づいてプロセスを全ての関係者に可能な限り明確に示し、最初から軌道はずれないよう予測できることをコントロールしなくてはならない。

TORの定義にステップ1を活用すること - テンプレート1.TORを補助として使用できる。また、最初に調査プロセスの全ステップを把握することが、最終案に至るプロセスをしっかりとTORにまとめる上で役立つ可能性がある。

TORは、各プロジェクト、各文脈分析に必要な情報ごとに定める必要があり、2つのTORが同じになることはない。外部コンサルタントやパートナーを雇う予定がなくとも、TORは作成すべきである。TORは、秩序ある行動と明確性を維持するために必要なロードマップ、あるいは重要な工程表と捉えるべきである。

### 質問事項チェックリスト:

- 質問は明確かつ焦点が絞られているか
- 質問は調査可能か; 調査が行える期間と必要なリソースを考慮すること
- 調査の質問に答えるために必要な方法は実現可能か
- 調査の質問に答えるために必要な方法は倫理的であり、セーフガーディング方針を遵守できるか
- 調査の質問の範囲が広過ぎたり、狭過ぎたりしてはいないか
- 最後に、調査の質問は「だから何」という問いに答えられるか。質問の重要性を説明できなければならず、それができない場合は質問の修正が必要になる場合がある。

## 1.5 中核チームを形成する

チーム内で中心となって文脈分析プロセスを調整・管理する人物を決定すること。どの方法でデータを収集する場合も、必要に応じて、また状況に応じて、以下の職員を参加させることも検討すべきである。

表: 中核チームの役割

必須 中心となる人物を1人決める	専門技術職員	一次データ収集を行う場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>● GBV専門家</li> <li>● CP専門家</li> <li>● ジェンダー専門家</li> <li>● セーフガーディング/PSEA専門家</li> <li>● M&amp;E専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関連する技術専門家 - 調査の質問の焦点に即し、教育・SRHR・MHPSS・FSL等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データ収集者: 年齢、性別、言語、民族、文化的背景を考慮すること</li> <li>● 翻訳者/文化面での橋渡し役: コミュニティの翻訳者との兼ね合いで、性別/年齢/文化的背景/実務経験を考慮すること</li> <li>● 記録係: 性別/文化的背景を考慮すること</li> </ul>
<p>上記の担当者のうち少なくとも2人は、文脈分析に直接関与、または分析を主導すべきである。他の職員は分析に参加してサポートを行う。</p>		<p>コミュニティの翻訳者は、専門家としての深い見識が少ない場合があり、コミュニティの外部の翻訳者ほどの信頼性がない可能性がある。この場合、質問の文言を調整する必要があるかもしれない。</p>

文脈分析プロセスに携わる職員(データ収集者、記録者、進行役、コミュニティボランティア等)が十分な時間を確保できるよう、計画と予算を立てること。これは、ツールの設計やデータ分析に特に言えることで、予想以上に時間を要することがよくある。文脈分析を外部機関や組織と共同で行う場合は、さらに時間と能力が必要となる。

### 1.5.1 データ収集チームの決定

ユニセフ、UNFPA、WRC、Johns Hopkins 大学は、危機下で行われる児童婚について世界的規模で実施した調査に基づき、データ収集チームを探す際に考慮すべき点をいくつか指摘している[12]。

児童婚等のデリケートな問題について話し合う際は、参加者がデータ収集者、また記録係や翻訳者がいる場合は彼らと同席する際に、なるべく心地よく感じられることが必要だ。そのためには、**調査対象者と同じような背景や特徴を持つデータ収集者を採用するのが最善の策である**。こうした特徴には、言語、年齢、ジェンダー、出身地、民族、宗教等が含まれる。

児童婚は、その根本原因が性別に基づく人間関係における不平等な力関係とジェンダー不平等にあることから、GBVの一形態である。そのため、児童婚を調査する際には、データ収集チームの性別、ジェンダー、年齢は、回答者との信頼関係や安心感、絆を築く上で特に重要となる。これは、子ども、思春期の若者、ユースからデータを収集する場合は特に言えることだ。多くの場合、子どもやユースは、ずっと年上の人よりも、自分と同年齢の人と話す方が話しやすいと感じる。**調査チームのリーダー、そして理想的にはチーム全員が、少なくとも回答者と同じジェンダーであることが強く推奨される。**

多くの倫理審査委員会やIRBは、児童婚等のデリケートな問題に関するデータを男性のデータ収集者が女の子やユース女性から収集することを承認しない。**(IRBの詳細は、こちらを参照)**。常に、調査者と回答者の間の力関係やジェンダー面を考慮し、偏見の少ない安全な空間をどう作るのがベストか意識していなくてはならない。また、回答者がデータ収集チームに安心感と心地よさを覚えるよう、状況によっては宗教や民族性等のアイデンティティ要素を考慮する必要がある。この点については、**ステップ3の「倫理的配慮」**で詳説しており、**ツール4「一次データ収集における倫理的配慮」**も併せて確認すること。

女性や女の子の教育レベルが低い状況下では、複雑な調査や調査方法、記録を行える読み書き・計算能力を持つデータ収集者を確保することが難しい場合がある。高等学校以上の教育を受けた女性、特にデータ収集や進行役の経験がある女性は、通常、リソースが限られている人道支援の現場では需要が高いただろう。**現地または国の大学やその他の教育機関と提携できるかを確認することは、常に重要である**。大学は、**ユースを対象としたデータ収集に適した若いメンバーを見つける上で格好のリソースにもなり得る**。

調査能力は十分ではないかもしれないが、カやジェンダーの不平等について理解が深いことを考えると、**女性団体や組織と提携**することが別のアプローチとして考えられる。このアプローチを採れば、交差性に基づくアプローチを活かした能力開発へと広がっていく。それこそ、このツールキットが目指す形に他ならない!

データ収集チームのメンバー全員に適正な報酬を支払うこと。難民グループ等、現地のコミュニティ住民をデータ収集員として雇うことに制約がある場合は、彼らが費やす時間とスキルに対する報酬を別の形で支払うための予算と計画を組むこと。それには、携帯電話データカード、交通費、食料引換券、他の適切な手段が挙げられる。

### 1.5.2 ユースを巻き込む

ユースを共同調査員として参加させることは、作業上、また成果的にも多くのメリットがあるだけでなく、若い調査参加者にとっても幸福感や安心感が高まる可能性があり、重要である。その他のメリットとして:

- データの質が向上し、ユースの参加者を集めやすくなる;
- 調査者と参加者の間の力の差が縮まる;
- ユースが新しいスキルと経験を積むことができ、ユースのエンパワーメントにつながる;
- 世代間の議論と協力が促進される。

ユースは、調査の設計と計画、データ分析、報告書の作成、管理、手配、財務、結果の公開等、調査プロセスの全段階に関与することができる。だが、ユースの参加が単に調査のためではなく、必ずユースにとって有益で配慮されたものにするのが重要である。例えば、適切な研修、指導、支援を計画段階で盛り込み、ユースがストレス等の悪影響を受けずに、力を認められ十分参加できる状態にあると感じられるようにすること。参加することが、ユースの専門的能力の向上につながらなくてはならない。

このアプローチが強く奨励される一方で、この方法は経験豊富な大人のデータ収集者を採用するよりも、時間的・金銭的に多くのリソースが必要であることに留意されたい。この点を踏まえて、予算と準備を行う必要がある。例えば、特に若いメンバーがこうした活動に初めて携わる場合は、経験豊富な他のメンバーが彼らに助言を行い、指導・監督する必要がある。ユースが費やす時間と貢献に対しては、経験の有無にかかわらず、適正な報酬を支払わなくてはならない。

ユースを一次データ収集、またはより広範に文脈分析のプロセスに関与させるつもりであれば、セーフガーディングの責任者およびM&E専門家に助言を求めることを勧める。さらに詳しい情報と、UNHCRおよびパートナーがM&Eへのユースの参加を促進するためにユースを含む関係者と作成した新しい基準については、次のリソースを参考のこと:

## ユースの参加に関する追加リソース

Adolescent participation in UNICEF M&E, ユニセフ、2019年、[こちらから入手可能](#)

Standards for enhancing meaningful engagement of youth in evaluation, UNFPA, EvalYouth Global Network, Parliamentarians Forum for Evaluation, 2023年、[こちらから入手可能](#)

### 1.5.3 データ収集者が簡単に見つからない場合

識字率が低い等、データ収集者の確保が難しい場合は、**コンピューター支援型の調査法でデータ収集をサポートとすることができるとも**かもしれない。だが、これには他のリソース(予算、技術、人材)をうまく活用する必要がある。質の高いチームを編成できない場合は、一時データ収集を実施すべきかどうか再考する必要があるかもしれない。

## コンピューター支援法の例

<b>コンピューター支援型自計式調査</b>
面接者の直接的な支援を受けずに、参加者がオンライン上で直接回答できる方法。
<b>コンピューター音声支援型自計式調査</b>
参加者が事前に録音された質問を聞き、タブレットなどのタッチスクリーンデバイスを使用して質問に回答するデータ収集方法。
<b>コンピューター支援型電話調査</b>
あらかじめ設定された質問リストに従って、面接者が参加者に質問し、電話を通じて回答を記録する方法。

経験が浅い、または調査スキルの未熟なデータ収集者を採用せざるを得ない場合もあり得る。その場合、研修や監督を増やしたり、あるいは採用した調査方法に修正や変更を加える必要がある。データ収集の質と厳密性を最大限高めるためには、データ収集者の人数を制限するのが通例である。

## 1.6 予算と作業計画

予算策定と計画は繰り返し行うプロセスである。プロジェクトの設計段階では、得られた情報をもとにできる限り詳細に計画と策定を行うべきだが、計画には変更が伴い、プロジェクトの範囲も広がっていくものなので、プロジェクト開始後も、活動の範囲や意図する結果に変更があれば、活動計画と予算を定期的に見直し、監視する必要がある。分析プロセスは、多くの技術職員による検証、議論、執筆に時間を要する可能性が高いことを忘れてはならない。



子どもにやさしいスペースから帰宅するRouguy(14歳)と友人たち

職員が必要な時間を最優先でプロセスに割けるように、職員への報酬を盛り込む必要も生まれる。

予算策定と活動計画に関する詳細な指針とテンプレートは、以下の通り: **テンプレート2. 活動計画**、**テンプレート3. 予算とツール**、**ツール3. 予算の検討事項**。

### 1.7 開始時のワークショップ

必要な決定事項を全て確定したら、開始時のワークショップを実施する。この時点で、以下の作業を完了している必要がある。

- 調査の質問の決定;
- TORの立案
- 活動計画と予算の策定;
- チームの確定- この時点でコンサルタントをすでに雇っているかもしれない;
- 一次データ収集の是非を決定;
- 分析の構造を決定。

開始時のワークショップは、プロジェクトの開始時に携わる全員で文脈分析プロセスの各ステップを議論する上で役立つ。これは、皆が顔を合わせ、疑問点を明確にする機会である。また、技術面で必要な様々なサポートの優先順位を決定することもできる。開始時のワークショップでは、以下のテーマを扱うと良いだろう。

- 導入
- プラン・インターナショナル、UNHCR、その他関連パートナーの紹介
- 調査の質問事項と目的
- 想定している方法
- 倫理、セーフガーディング、データプライバシー
- 職員および関与する様々な事務所(例えば、グローバル、地域、国別事務所)の役割と任務。開始時に要求事項を明確にするため、MOUを取り交わすことも検討できる。
- 取り組み方
- 成果物
- スケジュールと今後のステップ
- 質疑応答

文脈分析を期限内に完了するには、強力な調整力とリーダーシップが役立つだろう。



Zainabは、まだ学校に通っていた17歳のときに無理やり結婚させられた。彼女が学業を再開すると、夫は彼女のもとを去った。

## ステップ2: 児童婚に関する文献レビューの実施

既存の文献の調査は有用な理論・用語・方法の設定につながるため、文脈分析を行う意義の明確化に重要な役割を果たす。文献を調査することで、自分たちが行おうとしている文脈分析で既存のエビデンスの不足やずれを埋められるかどうか確認することができる。特に対象集団や背景が自分たちと類似していて、テーマに関するエビデンスがすでに大量に存在する場合は、新たな調査を実施する必要はおそらくない。その場合、把握しきれていない情報や、これまでの調査になかった視点を洗い出してはどうか。例えば、ある特定のコミュニティや危機においてすでに児童婚が調査されていても、結婚を経験した女の子の声が十分に反映されているだろうか、離婚した女の子や幼くして結婚した女の子がどんな影響を受けているか明らかになっているか、等である。

このステップで利用可能なツールとテンプレート:



- テンプレート5. 文献レビュー検索用語
- テンプレート6. 文献レビュー管理表

文献レビューは、(先行調査の文献では明らかにされていない部分やさらなる研究が必要とされる部分、すなわち)リサーチギャップが何かを把握し、一時データ収集で補完するための1つの方法として利用できる一方で、レビュー自体で完結する可能性もある。しかし、まずはより広範な対象範囲を特定して最初の分析を行い、その後調査の質問を改善し、児童婚に関連する特定の要素を掘り下げて調査(またはリサーチギャップを正確に把握)するとよいだろう。

文脈分析の範囲に応じて、どんな種類の文献レビューを行うべきかを判断する必要がある。一般的に、ナラティブレビューが最も多く選ばれるが、使えるリソースによっては、別の調査方法も検討すると良い。

表: 文献レビューの種類

説明	長所と短所	例
<b>ナラティブレビュー</b>		
<p><b>ナラティブレビュー</b>(一般的には文献レビューとも呼ばれる)は、ある主題や問いについて既存の文献を批判的な視点で評価、要約する。また、テーマに関する結論を導き、既存の知見におけるリサーチギャップや矛盾を明らかにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✔ リサーチギャップの特定を含む、関連文献の要約</li> <li>✔ 範囲 – 見つけた文献に合わせて調整可能</li> <li>✖ レビュー著者の判断で何を採り入れ何を除外するかを自由に決められるため、偏った見方になる可能性がある</li> <li>✖ 既存のエビデンスの網羅的な把握・分析を目指すものではない</li> </ul>	<p><i>Handbook of eHealth Evaluation: An Evidencebased Approach</i>1thの第9章を参照[13]。</p>
<b>システマティックレビュー</b>		
<p><b>システマティックレビュー</b>とは、あらかじめ設定され標準化された調査方法に従って実施されるものである。評価対象となる論文、読者、取り組み、結果、収集される情報に対する質問、包含基準、除外基準は全てあらかじめ設定されている。レビュー著者は、厳密にその方法に従い、入手可能なデータの収集・報告・分析を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 透明性、再現性があり、偏見を最小限に抑えられる客観性が非常に高くしつかりとした調査方法</li> <li>✔ 調査の質問と範囲に関連する全ての文献について網羅的・体系的な把握を目指す</li> <li>✖ 多くのリソースが必要</li> </ul>	<p><i>Cochrane Collaboration Handbook</i>(<a href="#">ここからアクセス可能</a>)を参照。</p>
<b>文献解題(参考文献一覧)</b>		
<p><b>文献解題</b>は、引用した書籍、記事、文書の一覧である。各引用には、その論文の主な研究結果と、対象となっている課題に関連する事項を含む簡単な要約(通常100~200語)が記載される。通常、最低限でも、その文献の目的、内容の要約、テーマとの関連性、調査の特別または特別な点、文献の長所・短所や偏見についての考察が記載される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 複数の独立した論文や調査結果を、要約された、理解しやすい形で閲覧できる</li> <li>✖ 何を採り入れ何を除外するかをレビュー著者が自由に決定できるため、偏った見方になる可能性がある</li> <li>✖ 入手可能な知識をより総合的に集めるという点で限りがある</li> </ul>	<p>文献解題の指針や例を掲載したウェブサイトは多数存在し、例えば<a href="#">これはColumbia大学によるもの</a>。</p>
<b>スコーピングレビュー</b>		
<p><b>スコーピングレビュー</b>は、主に文献全体の規模と範囲がどの程度あるかを評価し、その量と特性をつかみ、概観を把握することを目的に、迅速に行う文献レビューの一形態である。より包括的な文献レビューを行う前に焦点を明確化するために行われるほか、リサーチギャップを把握する際にも行われる場合がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✔ 利用可能な文献の量を把握する、リソースをあまり必要としない方法</li> <li>✖ 論文の調査結果に焦点を当てるのではなく、どんな調査がこれまでに実施された、あるいは実施中であるかに焦点を当てる。したがって、政策や実践の提言の根拠にすることはできない。</li> <li>❓ 調査や戦略構想への情報提供を目的とした文献レビューとして有効である可能性がある</li> </ul>	<p>コクラン共同計画のリソースは、<a href="#">ここから参照</a>のこと。</p>



## 2.1 調査の範囲を確定する

文献レビューを開始する前に、職員はリソースの**包含・除外基準**を確立すべきである。調査前に基準を作成することで、プロセスの指針となって、文献レビューに関連する範囲内に限定して検索を行い、逸脱を防ぐことができる。下記を考慮して基準を策定すると良い。

- **地理的な位置:** 国や地域等、例えばバングラデシュや西アフリカなど。
- **読者層:** 特定の読者層に限定して公開するかを検討する。
- **データの有効範囲:** 文献レビューの一般的な有効期間は過去10年間だが、直近の5年間の資料を優先すべきである。また、場合によっては、例えば、コミュニティの状況を一変させ、そのため過去の調査や情報を一部無効にさせた危機の発生日など、妥当な基準日を設定できる場合もある。
- **テーマ:** 例えば、ジェンダー、年齢、健康、人間関係、コミュニティ、社会、危機的状況とその対応。
- **出版物の種類:** 例えば、灰色文献や学術誌等。本件の場合(すなわち、人道危機における児童婚に関する文献レビュー)は、INGOの報告書等、灰色文献が最も有用であるだろう。
- **出典:** 既知の特定の組織がそのテーマについて公開しているもの - 例えば、OCHA、UNHCR、UNFPA、プラン・インターナショナル、Girls Not Brides、CARE、Save the Children等。
- **言語:** 常に各言語版を扱うように努め、特にその文脈で主要な言語版は必ず含めること。関連する言語スキルを持つ職員を指名するか、短期コンサルタントを雇い、追加の言語検索をサポートしてもらうことも検討すべきだ。また、国家行動計画等の主要文書の翻訳サポートとしてDeepLやGoogle翻訳などのオンラインアプリケーションを活用できる場合がある。

除外基準には以下を含めること

- **関連性のないテーマ:** 文献レビューの対象外の地理的地域に関する文書等。(参考になる場合もあるが)
- **出版物の種類:** 意見記事や未検証の情報源等。

## 2.2 文献検索

キーワード検索を行う。Google、Google Scholar、組織のウェブサイト(例: ユニセフ)、ReliefWeb等の他のウェブサイト、データベース(例: SAGE、PubMed)、学術誌(例: Disasters、Journal of Refugee Studies等)で検索できる。

検索用語は絞り込み、簡潔にすべきであり、関連文献を見つけるためにキーワードを活用すべきである。例えば、「危機下の難民における児童婚」のような長くて複雑な表現ではなく、「児童婚 AND 難民」というように、キーワードだけにすること。検索用語やプラットフォームの詳細については、**テンプレート 5. 文献調査検索用語**を参照のこと。

**TIP** 構文検索は情報源の特定に役立つことがあり、例えば、引用符を使用して「児童婚」などの特定のフレーズを検索することができる。また、「子ども AND 結婚」、「早い OR 児童婚」のように、AND、OR、NOTの使用は、検索範囲を拡大あるいはコントロールする上で役立つ。さらに、異なる表記が考えられる場合にはアスタリスクを使用すると便利である。例えば、「子ども」と検索すると、「子ども」と「子どもたち」の両方が検索される。

文献を特定するためのその他の考慮事項とヒント

- 関連性が強く有用であるとすでに分かっているリソースで参照されているリソースを検索することで、入手できる資料を雪だるま式に増やす**スノーボール方式**を採用する。
- 特定された知識の不足部分を埋め、(調査で行う)質問の対象範囲内であることがわかっている情報を得るために、**手作業で検索**を行う。
- 当該地域で活動していたり、児童婚に取り組んでいる**ネットワークと連携**する。彼らはリソースについて知識があり、知識不足がある場合は、それを埋めるために公式/非公式のインタビューに応じて追加のリソースを提供してくれる可能性がある。
- 国、州、地域レベルの**ワーキンググループ**や**下部会/部会**(例えば、GBVまたはCP下部会の調整役など)に**連絡し**、最新の関連文書の共有を依頼する。全てがオンラインで公開されているとは限らない。

重複を避け、検索を容易にするため、文献リソースには必ず明確な名称を付けること。

## 2.3 文書追跡、取り込み、検証

リソースを検証し、リソース追跡文書に**エビデンスのマッピング**を始める。これは、検索段階で特定できたリソースから得た情報をExcelシートやWord文書に手作業で追加する形になる。文献の追跡と包含を補助する**テンプレート6. 文献レビュー情報管理表**を参考のこと。また、ソフトウェアツールを使用して行うこともでき、例えばCovidenceは、複数人でレビューを行っている場合に、文書の数に応じて活用できる。使用する表は以下のような簡略式になるか、または調査の項目をさらに追加する形になる。

出典	読者層	調査地と日付	取り組み	調査の設計/ 調査方法	調査結果	引用	質的評価



Poonamは13歳で結婚した。学校で優秀な成績を収めていたが、夫の家族から中途退学を迫られた。プランの支援により彼女は勉強を続け、21歳となった現在、教師となって他の女の子の力になれる日も近づいている。



文献レビュー情報管理システムに取り込まれたエビデンスを精査し、関連性のないものは除外して、全てのリソースが必ず包含基準を満たしていること。除外したものについては、(必要であればその理由とともに)記録しておくこと。

このステップ全体を通して、職員はこれまでの調査の強みと制約に焦点を置きつつ、調査方法について振り返りを行うべきである。

#### 2.4 一次データの収集を伴う/伴わない 文献レビュー

まず調査の質問事項に基づいて文献レビューを行い、その結果に基づき、一次データ収集の必要性を判断することができる。あるいは、最初から一次データ収集実施を計画することもできる。

いずれの方法でも、一次データ収集で行う質問事項と調査項目は入手可能なデータと情報に基づき、文献レビューの結果を踏まえて改良を加えること。

(住民や現在の危機的状況について)、それぞれの状況の中で児童婚に関する情報がどの程度入手できるか、大体見当がつけられるかもしれない。これは、一次データの収集が必要かどうかを計画プロセス開始時に判断する上で役立つだろう。

まず、それぞれの状況において、過去に一次データ収集が実施されたか、またそのデータが入手可能かを確認する必要がある。データの収集を重複して行くと、プロセスを進めていく参加者の意欲が低下する恐れがあり、時間とリソースの無駄づかいになるため、好ましくない。





これらの要因全てが、既存の文献で明らかにされていない部分や限界があるかを見極める上で役立ち、また、それらを埋める上で一次データ収集が貢献できる分野を特定することにつながる。

「知るべきことツール」は、リサーチギャップを把握してどの分野の情報が豊富にあるかを明確にするとともに、指針として活用できる。

文献レビューから得られた主な結果をマッピングして整理し、情報の矛盾や不足がある箇所を特定することは有益だろう。それを基に、一次データ収集で重視すべき情報を優先順位付けすることができる。

表: 調査結果とリサーチギャップのマッピングの例

机上調査の全体的な調査結果	さらなる調査が必要な部分は何か、リサーチギャップは何か
1. 児童婚の主な要因は... 2. 誰が結婚の意思決定者であるかについては様々な食い違いがある...	<ul style="list-style-type: none"> <li>既婚の思春期の女の子から直接データを収集した文献は存在しない。</li> <li>結婚儀式や通過儀式に対する宗教指導者の見解に関する情報に一貫性がない。</li> <li>児童婚に関する入手可能な情報はほぼ皆無である。</li> </ul>

文献レビューの原案が完成したら、まだ不足している情報は何かを考えるとよい。以下を考慮するとよい。

- 既に入手可能で収集された情報では、誰かの声が過剰に、あるいは過少に取り上げられていないか。既婚の女の子の声は明確にとらえられているか。
- 入手可能な情報は、様々な視点やリスクを捉えているか。抜けている人はいないか。
- 調査結果を確認・補足・追加するために、誰と話し合うべきか。
- 机上調査の結果に不足している点を優先し、今、把握すべきことは何か。

通常、思春期の若者は、たとえ彼らに関わる問題(児童婚等)であっても、調査やニーズ評価でその声が十分に聞き取られ、活かされることは少ない。文献を調査する際には、思春期の若者がどの程度関与していたかを把握するため、過去に実施された一次データの収集方法を確認すること。

以下の点を確認すること。

- 思春期年長期/年少期の若者か
- 男の子/女の子か
- 障害、性的指向、異なる民族等、交差性は考慮されていたか
- 結婚歴のある女の子または若い母親か

入手可能なデータの評価の際には、他にも考慮すべき要因がある。例えば

- 既婚の女の子の配偶者や保護者の視点や意見がデータに反映されているか;
- 調査方法が参加型であったか。これは、調査員が収集できた情報の種類や深さに影響を与えた可能性があるため;
- 不足部分を埋めるのに必要な人道対応能力についてどの程度認識しているか、また、児童婚を防止・対応するべく、思春期の女の子とその家族のニーズに応えるための現在のプログラム、優先事項、能力をより正確に把握するために入手できるデータや情報があるか。

一次データ収集を行う場合、データ収集を実施する際に考慮すべき関連情報を全て網羅した調査プロトコルの作成が必要となる。**テンプレート7. 調査プロトコル**を使用した**調査プロトコルのサンプル**を参照のこと。本セクション(ステップ3)では、児童婚に関する一次データ収集の調査プロトコルを完成させるための主な考慮事項と計画について説明する。



## ステップ3: 一次データの収集

一次データ収集を行わない場合は、ステップ4: データの分析と検証にそのまま進むこと

### このステップで利用可能なツールとテンプレート:



- ツール4. 一次データ収集における倫理的配慮
- ツール5. 参加型データ収集・分析方法の概要
- ツール6. データ収集の参加者例
- ツール7. 思春期の若者の声を聞く際に重要な点
- テンプレート7. 調査プロトコル
- テンプレート8. データ収集を行う上でのセーフガーディングとリスク評価
- テンプレート9. データ収集計画

このセクション全体を読み、安全で倫理的なデータ収集を行う鍵となる分野は何か、またスケジュール、予算、能力の範囲内で何が実行可能かについてチームと話し合った上で、調査プロトコルの作成を開始することが望ましい。このステップに対応するツール「調査プロトコルテンプレート」を使用すること。これは、安全で倫理的な一次データ収集の計画に必要な企画、主な考慮事項と情報を示したものである。

### 3.1 倫理的配慮

一次調査を実施するにあたり、言いたくないことを無理やり言わせてしまったり、参加者にはほとんど何のメリットもないのにトラウマをよみがえらせたり、それどころか彼らやデータ収集チームを危険にさらして害を及ぼすことがないように徹底することは、支援を提供・実施する者として私たちの責任である。大半の危機的状況では、リソースは乏しい。そのため、参加者がGBVや虐待を打ち明けたり、追加の支援を求めた場合に支援やケアを提供できる状態にあることは不可欠である。予見できるリスクを上回るメリットを必ず調査でもたらすようにすることが、私たちの責任だ。また、調査の実施が、生活に不可欠、あるいは救命的な支援を提供している現地の組織や援助機関に負担を強いるものであってはならない。リソースが限られた状況では、あらかじめ国および/または人道支援のCP・GBV支援提供者と連携することが、照会経路や受けられる支援について明確に理解した上で調査実施の倫理に関する意思決定を行うために不可欠である。

結婚歴のある女の子の多くが、何らかの形で結婚に関連した性的虐待を受ける可能性が高いことは認識されている。結婚歴のある女の子を対象とするデータ収集は、CPまたはGBVの訓練を特別に受けた女性職員のみが行うべきである。データ収集では、これまでに経験した可能性のある虐待の詳細を報告するよう参加者に求めてはならない。その代わりに、彼女たちのニーズ、困難、優先事項に関する質問をすべきである。結婚前に、あるいは利用しなかった情報や支援について尋ねてみることも考えられる。

WHOは、危機下における性暴力の調査・記録・監視に関する8つの倫理的・安全上の提言を示している。児童婚は必ずしも常に性暴力であるとは限らないが、多くの場合性暴力と強く 관련된GBVの一形態である。

- 1 **リスクと利益を分析する:**「性暴力の情報を文書で記録することで回答者やコミュニティに及ぶリスクを上回るメリットがなければならない」。
- 2 **調査方法:**「情報収集と文書化は、回答者に及ぶリスクを最低限に抑える形で、秩序ある方法で行い、現在の経験と好事例に基づくものでなければならない」。
- 3 **照会サービス:**「個人が自分の受けた性暴力に関する情報を打ち明ける可能性のある活動を開始する前に、経験者/被害者に対する基本的なケアと支援が現地で受けられる状態にしておく必要がある」。
- 4 **安全:**「性暴力に関する情報収集に関わる全ての人の安全と安心は、最大の懸念事項であり、特に緊急事態においては継続的に監視されるべきである」。
- 5 **守秘義務:**「性暴力に関する情報を提供する個人の秘匿性は、常に守られなければならない」。
- 6 **インフォームド・コンセント:**「性暴力に関する情報を提供する者は、データ収集活動に参加する前に、インフォームド・コンセントを提出しなければならない」。
- 7 **情報収集チーム:**「データ収集チームのメンバーは全員、厳選され、関連する十分な専門的訓練と継続的なサポートを受けなければならない」。
- 8 **子ども:**「子ども(18歳未満)が情報収集の対象となる場合は、追加の保護措置を講じる必要がある」[14]。

- 児童婚その他の形態のGBVに関するデータを収集する際の倫理的配慮に関する詳細は、WHOのガイドラインおよびWRCの「[A Practitioners guide to Ethical Conduct of Research on Child Marriage in Humanitarian Settings](#)」を参照のこと。また、計画と実施支援に向けた一次データ収集に関する倫理的配慮については、[ツール4](#)を定期的に参照すること。

### 3.1.1 プライバシーと通報義務

児童婚が違法とされる地域があり、児童虐待や一部のGBVについて通報が義務付けられている場合があることを踏まえ、参加者に予期せぬ危害やリスクが及ばないよう、一次データ収集を計画する際に考慮すべき重要な点が2つある[12]。

#### 1 プライバシー

世界の多くの国では、児童婚を防ぎ・抑止するための法律とその施行に多くの矛盾があり、曖昧なことが少なくない。こうした現状に、この慣行が何の罰則も受けずに横行する隙が残されたままになっており、大きな構造的課題の1つだと言える。人道支援の現場、特に難民支援の現場では、危機の影響を受けていない住民に比べ、難民や避難民グループに対して法が厳しく適用されない場合があるため、さらに複雑な問題が生じる可能性がある。また、児童婚が一般的な慣行として広く行われながら、コミュニティ内では時として公然と批判される。この法律の曖昧さの裏側に、こうした現実が存在しているそうした複雑な社会の見方は、児童婚をした思春期の若者が、スティグマを負い、辱めを受ける等、マイナスの影響を受ける可能性があることを意味する。例えば、結婚前の性的関係、性暴力やレイプ、早すぎる妊娠、あるいは子どもが保護者を馬鹿にしていることで社会から受ける汚名を隠す理由として、児童婚が利用される場合もある。

#### データ収集チームの行動と推奨事項:

- 児童婚に関する法律や規制を調査し、それらに関連する事項を、データ収集前に、難民、IDP、受け入れコミュニティ等、調査対象となる全ての集団に対して十分に説明し理解させなければならない。
- 質的インタビューの参加者の募集は、広告やチラシの配布ではなく、コミュニティのつながりや地元のサービス提供者を通じて人づてに行うべきである。
- 無作為抽出が必要となりうる量的調査では、地元のコミュニティや慣習に精通した調査員を複数人選定することを推奨する。こうした信頼のおけるコミュニティの住民から集めた情報を基に、スノーボールサンプリングを行い、児童婚の影響下にある女の子と家族を把握する。無作為抽出や戸別訪問は、この調査には不適切である。
- 参加者の募集、同意、データ収集について結婚歴のある女の子や若い母親と会話する場合は、近所の人や他の家族にも見られたり聞かれたりすることのない、プライバシーが守られた場所で行うこと。
- 児童婚が非常にデリケートな問題である、厳しい制約や困難な状況下では、参加者の保護のため、データ収集を一对一で行う方が望ましいかデータ収集チームは検討すべきである。
- FGDでは、個人の経験よりもコミュニティの視点について参加者の意見を引き出すことに焦点を当てた質問を行うべきである。

### 2 通報義務

これは、データ管理・保存・利用等、調査プロセスの多くの側面に関係する。しかし、現地の法律や規則により当局への報告が義務付けられている(通報義務)場合、参加者が児童虐待の事例を共有または告白した際に、調査員は守秘義務を破る必要が生じる可能性もある。どんな状況下であれ、児童虐待が認められたり、記録されたりした場合に報告する義務が法律で定められているかを確認する必要がある。

#### データ収集チームの行動と推奨事項:

- いかなる児童虐待の場合も、調査員の義務として当局に報告するためにインタビューの機密性を破ることを承認する。該当する状況では、全ての同意プロセスを開始するにあたり、「児童虐待を認めた場合、または家庭内での児童虐待について報告を受けた場合は、当局に報告しなくてはならないことをお伝えしておきます」という旨を宣言し、必要に応じてその内容について明確にすること。

### 3.2 リスク評価・倫理審査委員会

#### 3.2.1 セーフガーディング

児童婚は非常にデリケートな問題であり、巻き込まれた子どもや思春期の若者にとって、その経験がトラウマになることが多い。プラン・インターナショナルの活動の観点から言えば、アフターケアや継続的な支援としてどんなサービスが存在するかを把握しないまま、こうした非常にデリケートな問題に関する対話に子どもや思春期の若者、ユースを参加させることは倫理的に問題がある。さらに、GBVの経験者や、いかなる形で虐待を受けたと思われる人との対話には、細心の注意を払わなければならない。担当するのは専門職員のみとし、求める情報が、トラウマを誘発せず、他の手段では入手できないという明確な裏付けがなければ、実施してはならない。詳細は、**ツール** 4. 一次データ収集における倫理的配慮を参照のこと。

子ども、思春期の若者や、児童婚またはいかなる形態のGBVのサバイバーとされる人を対象とする一次データの収集には、参加者の安全と最大の利益が総合的に考慮されるよう、倫理審査が求められる。これは、所属する組織内で可能である場合もあれば、外部のIRBによる審査を受けなくてはならない場合もある。例えば、プラン・インターナショナルは内部に倫理審査委員会があり、IRBとして登録されている。この機関は、プラン・インターナショナルと直接的なパートナーのみ利用可能であることを留意すること。

一方、児童婚に関する対話に子どもや思春期の若者を参加させないのは、彼らの声を無視し、彼らに影響を与える問題について彼らの視点が外される恐れがあり、彼らの主体性や意思決定への参加を妨げる有害な規範を強化することにもなる。倫理的な配慮をさらに施すには、より多くの時間、リソース、専門的能力が必要となる可能性がある。

## IRB

置かれた状況、組織内の能力、一次データ収集の種類によっては、調査プロトコルをIRBに提出して承認を得る必要がある。必要な事項については、現地のアドバイスに従うべきであり、また、必要な情報をまとめる際には、この指針を活用すると良い。調査プロトコルに必要な情報が、ここで推奨する内容で済む場合もあれば、追加の詳細情報の提供が求められる場合もある。IRBに関するより詳しい指針については、*A Practitioner's Guide to Ethical Conduct of Research on Child Marriage in Humanitarian Settings*の第6章Institutional Review Boardsを参照のこと[12]。IRBの審査を受けるよう求められない場合でも、組織内に倫理審査委員会がある場合には、そこに計画書を提出することを強く推奨する(例: プラン・インターナショナル倫理審査委員会)。あるいは、データ収集前にアプローチやツールを審査し承認する技術専門家の小グループを立ち上げるか、質の高い調査を維持し、起こり得る事態に対する対策として、独立したIRBの審査を受けることもできる。

だが、児童婚の影響下にある子どもや思春期の若者からほとんど情報が得られていない場合に、彼らと直接話すことで、その文脈分析の信頼性と有効性が高まる可能性がある - 大人の代理人とだけ話すよりも、さらに有効性は高まる。思春期の若者と話すことが不可能な場合は、子どもの頃に結婚したユース女性(現在18~25歳)と対話することが強く推奨される。

その他の考慮事項:

- データ収集チームの全員を対象に、**セーフガーディング対策の再教育訓練**を実施すること。
- 虐待・秘密の公表・即時支援のための**照会経路を含むセーフガーディング・プロトコル**を策定し、チームと参加者に共有すること。
- **進行役と記録係は、参加者の性別に合わせて選定する**。サンプル集団が男女混合である場合、データ収集活動は女性職員が主導することを推奨する(例えば、女性が質問を担当するなど)。ただし、男性であるべき重大な理由がある場合はこの限りではない。男性職員が望ましい場合は、男女混合のデータ収集グループの安全性と適切性を検討し、ジェンダー不平等の永続化につながる有害な社会規範・ジェンダー規範が強固にならないようにする必要がある。
- データ収集を仕上げる前に、現地職員と、またできればコミュニティで小規模な集団をつくって彼らとともに、**専門用語・デリケートな表現・生物学的用語や法律用語を全て確認**すること。これにより、翻訳上の齟齬がなく、言葉が不快感を与えることなく、データ収集プロセスが円滑にすすみ、受容性・適切性・明確性が確保できるようになる。
- **テンプレート13. データ収集者と話し合う用語**を参照のこと

## ● 3.2.2 安全性と業務の流れ

データ収集期間中の職員とパートナーの安全と安心を考慮する際には、活動対象コミュニティとその周辺における移動と活動が安心安全な環境で確実に行えることに重点を置くこと。

- **調査員の安全を監視するためのプロトコルを確立**する。全てのデータ収集会場への経路、および会場と周辺にあるリスクがデータ収集チームや参加者に及ぶ可能性について、詳細なリスク評価を実施すること。また、職員が目立たないように助けを求め、避難を開始するための戦略を策定することも推奨される。
- **出発前に事前説明が行われるようにし**、治安情勢に変化があった場合に備えて職員とパートナーは警戒するようにすること。
- **データ収集チームは、自身と子ども、コミュニティ住民の安全確保のため、2人以下でコミュニティを訪問してはならない**。
- **子どもや思春期の若者と決して2人きりにならない**、また、調査参加者の家に決して1人で行かないこと。

## データ収集プロセス

- **データセキュリティと保護プロトコルを設定し、常に遵守**すること。収集した情報から、子どもや大人の個人を特定できないようにすること。
- メモの保管場所と、他人の目に触れるかどうかを確認すること。
- 児童婚をめぐるタブーやデリケートな面を考慮した場合、安全かつ公平な参加を実現するには**男女別グループに分ける**のが望ましいだろう。

## 照会・開示

- データ収集者は照会経路・心理的応急処置のセーフガーディングと訓練を通じて、**GBVの告白やその他の虐待・暴力に備えて準備を整える**。
- ジェンダーに配慮した、子どもにやさしい、匿名性を保証するアクセス可能な**報告メカニズム**を確立する。

## 場所・会場

- 各対象集団と話し合い、**アクセスが容易で安全な場所を選択**する。特に、若い参加者、女の子、女性にとって安全で適切な場所であり、参加者が会場に到着・出発する際に、彼らにスティグマが生じることがないようにする。育児や勤務スケジュールが既婚の女の子や仕事を持つ人にとって、参加への障害となり得る可能性を考慮すること。
- **プライバシーが保証された活動場所を見つける**。建物内で調査を行わない地域では、「よそ者」がいる物珍しさから、望まない群衆や注目を集める可能性があり、これが難しい場合がある。見物人が集まらないように、見物人と別の場所で別途話し合いをする追加の職員が必要になる場合もある。データ収集者は、危害や暴力を打ち明けられた際に備えて、心理的応急処置の訓練を受けたり、照会プロトコルを確立する。

データ収集者がカウンセラーの役割を担う必要は一切ないが、危害を受けたことを適切な大人に打ち明けた場合であれば、私たちに彼らを守る義務があることを、事前に子どもに知らせる必要がある。

以下の表はデータ収集方法の種類とデータ収集ツールの基本的な例を大まかにまとめている。**参加型データ収集と分析の調査方法に関するツール5**では、FPARによる参加型調査ツールと調査方法のより詳細なリストも見ることができる。

### 3.3 データ収集ツールの選定と開発

調査の優先分野が決定したら、それに基づき、誰に話を聞き、最も安全で倫理的な方法でテーマにアプローチするにはどんな方法が最適かを考えること。

4つの指針、すなわち、交差性、女の子の視点に立つ、害を及ぼさない、社会生態学的モデルを必ず念頭に置いて、考察をすすめること。サンプルの規模はリソースと能力によって決まるが、足りない部分を調整グループや部会等のより幅広いグループと共有することで、現在だけでなく将来の文脈分析に活かせる場合もある。

**注意:** 参加者が増えるとデータ量が増え、分析や処理に要する時間も長くなる。データ量がければ、必ずしも文脈分析がより厳密に行えて、より良い結果が得られるという訳ではない。

表: データ収集方法

使用する方法	具体的な調査方法の例
<b>量的調査</b>	
多様なデータソースからテーマに関連するレベルや傾向を決定し、数量で示す	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査</li> <li>● 定量的観察(数字や数値に焦点を当てたデータの収集)</li> </ul>
<b>質的調査</b>	
多様な視点からテーマを深く掘り下げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インタビュー</li> <li>● FGD</li> <li>● 参加型手法</li> </ul>

質問の方向性やツールの開発の一助となるよう、私たちは、回答者のタイプごとに(例: コミュニティ指導者、父親等)、児童婚に関する包括的な質問リストも用意している。



Rahimat(18歳)は、思春期の女の子ネットワークとともにキャンペーンに携わっている

## 3.3.1 データ収集ツール開発における重要事項

## TIP

ジェンダーと力の不平等が常にデータ収集と分析のプロセスに影響を与えていることを意識すること。常に交差性に留意すること。排除と疎外を延々と生み続ける有害な現状を強固にするのではなく、力の再分配と包摂性の支持をすすめること。これは、以下を考慮することを含む(ただし、これに限らない)。

- データ収集活動の参加者(回答者)は誰か
- 誰からどのように同意を得るか
- どのデータ収集方法が使われるか
- いつ、どこでデータを収集するか
- データを収集者(集計者や翻訳等)は誰か
- データ分析者は誰か

## TIP

児童婚に関するデータ収集では、**参加型手法が最も効果的かつ倫理的であることが多い**。それは、インタビューに最適な質問を練り上げたりせずとも、個人または少人数のグループで課題に取り組むことで打ち解けた居心地の良い空間が生まれ、参加者をデリケートな話題に抵抗なく導けるからである。また、質問に回答する形よりも、社会規範とジェンダー規範の実態をつかむことができる。

## TIP

回答者に、自身の児童婚やその他のGBV関連の経験について話すよう圧力を決してかけないこと。特に、どんな形であれGBVや虐待の経験者が、個人的な体験を話さなければいけないと感じることがないようにすること。

- 「まだ子どもの時に結婚した人はいますか。その経験について教えてください」と尋ねないこと。代わりに、「このコミュニティでは、女の子が結婚する一般的な年齢はいくつですか」「結婚を決めるのは誰ですか」「このコミュニティのユースにとって結婚とはどんなものか教えてください」と尋ねること。
- **ピネット・アプローチ**(ある状況における課題を盛り込んだ架空の物語を文章にして回答者に読ませる)を採用すること。そして、回答者にそれについて考え、意見を述べてみるよう促すが、彼ら個人の実例を挙げる必要はないことを必ず伝える。告白を無理強いせずに、社会・文化規範やジェンダー規範について豊富な情報を得ることができる。

## TIP

現地職員との共同作業に時間をかけ、可能であればコミュニティ住民とも協力して、**ツール(質問、言語、計画)を策定し、文脈に沿ったものにし、検証すること**。これは、質問やデータ収集の様式が「害を及ぼさない」の原則に沿っており、把握したい情報の種類に合ったものになっているかを確認するためである。

## TIP

「少ないほど豊か」一回答者に様々なテーマについて多くの質問をしないこと。特定の集団から知りたい情報を厳選し、できるだけ具体的にすること。これは、具体的な事柄について有意義な会話を生み出し、表面的な情報を多く集めずに済む。

## TIP

可能であれば、**回答者と事前打ち合わせの機会を設ける**。事前に、データ収集プロセスと、データ収集実施組織および回答者からの要望を確認しておくことは有益である。通常、疎外されがちで、フィードバックや情報を提供することに慣れていない回答者(例: 既婚の女の子や成人女性)も、こうした機会があることで気を楽にデータ収集に参加することができ、不安が減り、その結果データ収集の成果を向上させることができる。

文化的・文脈的要素の絡む児童婚について特定の集団の間で議論するには、個々の状況にあったデータ収集ツールを開発することが常に求められる。例えば、フィリピンのIDPコミュニティにおける児童婚に関するデータ収集の際、児童婚について直接尋ねると、回答者は意見を言えなくなることがわかった。だが、思春期の若者が関心を寄せる問題に焦点を当てて質問を組み直し、例を挙げ、参加型手法を採ったところ、回答者とデータ収集チーム双方にとって倫理的で心地よい方法で、より深い洞察を得ることができた。

質問事項の検討に役立てられるよう、WWNK-CM枠組みと関連付けた質問一覧表を準備した。この一覧表は網羅的ではなく、また、各調査の状況に合うものかは考慮されていない。また、使用すべき調査方法についてはチームのスキルや能力によって異なるため、詳細に説明していない。

**全てのツールは、CP、GBVおよび/またはジェンダー専門家、並びにM&Eの専門家により開発・検証される必要**があり、また、調査したい他のセクターの専門家も関与すること。セーフガーディングとPSEAの観点からの検証も推奨されるが、これは倫理審査またはIRBでも対応可能である。

## 3.3.2 同意書および情報シート

データ収集ツールに加え、参加者の異なるグループごとに同意書と調査に関する情報シートを収集する必要がある。また、これらの書面を文字と絵の両方で作成する必要性があるかを検討すること。同意書と承諾書(黙諾を含む)のテンプレートは、情報シートと統合された形でこちらから入手可能。

- テンプレート17-21: 子ども、保護者、成人(職員を含む)向けの同意書/承諾書(黙諾を含む)のサンプル(オンライン用)
  - ▶ テンプレート17. 子どもと思春期の若者向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート18. 18歳未満のこどもの保護者向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート19. 成人(18歳以上)向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート20. 成人向けオンライン同意書および情報シート
  - ▶ テンプレート21. メディア利用同意書

作成にあたり、対象者の言語・識字レベルを考慮し、複雑な表現をせず、簡潔な表現を心がけること。

各サンプル集団に合わせた特定の同意書を作成する。子どもからのインフォームド・アセント(本人に同意能力がない場合に保護者等が判断して本人に同意してもらう過程で得られる承諾や黙諾を指す)には、既婚の子どもなど十分に成熟して同意能力がある例外的な場合も含め、異なる書式が必要となる。保護者、既婚の女の子の男性配偶者など、特定の書式が必要になる場合もある。詳細は、以下の表を参照のこと。

- 書式は、(調査のどの段階でも情報や回答を撤回する権利があること等)の説明を行い、全参加者から署名をもらわなければならない。
- コミュニティ住民を特定する氏名や秘匿性の高い個人情報<sup>1</sup>は記録してはいけない。通常、収集すべき個人情報は、調査に不可欠な情報のみであり、例えば年齢層、性別、婚姻状況などである。秘匿性の高い個人情報を収集する際には、その背景を分析し、その状況下で何を収集するのが安全で必要なのかを自問しなければならない。
- 明確なデータ保護プロトコルが必ず存在すること。

表: 子どもの同意プロセスと免除

子ども(18歳未満)の同意プロセス	子どもの保護者の同意が不要な場合
<ul style="list-style-type: none"> <li>● まず、子どもの保護者の同意を求める必要がある。</li> <li>● その後、子どもの参加者の承諾(黙諾を含む)を得ること。</li> <li>● 保護者の同意と、子どもの承諾(黙諾を含む)の両方が必要である。両方が揃わないと、データ収集を実行できない。例えば、保護者の同意は得られたが、子どもが承諾(黙諾を含む)していない場合、その子どもはデータ収集に関与できない。また、その逆の場合も同様である。</li> <li>● ただし、地域やユースの状況によっては例外が存在する可能性があることに留意すること。</li> </ul>	<p>これは例外を網羅した一覧ではないため、現地チーム/パートナーおよび倫理審査委員会に相談すること。</p> <p><b>既婚の子ども:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもが結婚して、配偶者と暮らしている場合、既婚の女の子の夫から同意を得ることは一般的に望ましくない。</li> <li>● 子どもが支援サービスを受けており、本人が参加を希望する場合は、ケースワーカーが協力し、その子どもの生活の中で信頼できる大人を見つけて、同意を得る方法もある。</li> <li>● しかし、児童婚には力学やデリケートな問題が伴うため、反発を和らげ、参加を確実にするために、データ収集活動について夫に知らせる必要がある場合もある。女の子の安全、データ収集チーム、コミュニティ、組織に起こり得るリスクを特定し、参加のメリットがリスクを上回ることを保証し、リスクを軽減するためのあらゆる措置が講じられるように、女の子が参加する形で包括的なリスク評価を実施すべきである。</li> </ul> <p><b>他の免除対象:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 未成年者が保護者と別に暮らしている場合。</li> <li>● 法的成人年齢が18歳未満の場合。</li> </ul>

1 個人情報: 氏名、住所、生年月日、性別、メールアドレス、IPアドレス、写真、識別番号。秘匿性の高い個人情報: 生体認証データ、パスポート番号、健康情報、宗教的信念、人種/民族、性的指向、政治的意見、労働組合への加入状況。

### 3.4 サンプリング

サンプリングとは、予め定められた基準に従って、調査者が調査対象とする人びと、項目、またはモノを選び出して抽出するプロセスである。意思決定の一環として、**ツール4. 一次データ収集における倫理的配慮**を再確認すること。

サンプリングを行う際には必ず交差性に基づくアプローチをとり、社会の様々な集団の間で交差し、増幅するリスクと脆弱性を全て考慮すること。1つのコミュニティの中でも、児童婚に対して実に様々なリスク/保護要因が存在する場合がある。

以下の基準を考慮すること(これは網羅的なものではない):

- **年齢** - 国連が思春期の若者の年齢層を、年少期(10~14歳)と年長期(15~19歳)と定義したが、参加者が違和感なく感じる年齢層を指すと考えると良い。さらに、質問の枠組みや調査方法が最も適切になるよう、参加者の年齢に合わせて調整すること。思春期年少期の若者や子ども、特に8歳未満の子どもを対象とした調査は、児童婚をテーマとする場合は特に、倫理的に難しい場合があることを常に意識すること。
- **ジェンダーとセクシュアリティ** - 非定型的なジェンダー、またはLGBTIQ+と自認する人を含めることが望ましい。自分のジェンダーおよびまたはセクシュアリティについて(参加者がどう感じているかという)アイデンティティをどのように特定または尋ねるかに注意すること。場合によって、LGBTIQ+と公表すると参加者の安全に影響が及びかねない法的制約がある場合もあるため、現地の専門家に助言を求めること。こうした場合、この件について一切尋ねることができない可能性もある。
- **婚姻状況または経験** - 児童婚がテーマであるため、参加者の婚姻状況や経験には注意を払う必要がある。対象となるのは、現在結婚している、または結婚歴のある(離婚、別居、死別、パートナーが行方不明等)女の子や男の子だが、結婚経験の有無に関わらず、経験や脆弱性に類似性があれば、子どもを持つ女の子も対象とすることができる。
- **障害のある人** - 場合によっては、障害があることで、児童婚のリスクが高く、あるいは低くなったりする場合がある。特に既婚の女の子などの小集団の中で障害のある人を特定し、接点を持つ場合は、調査に参加することでスティグマや危害を被ることがないよう、慎重に検討すべきである。また、全ての障害が目に見えるわけではないことを念頭に置き、様々な障害についてどうサンプリングするかを熟考すべきである。障害者包摂に関する**Washington short set of questions**を参照のこと。
- **少数派に属する人** - それぞれの状況には様々な少数派集団が存在することに留意し、関連する多様な視点を捉えるよう努める。健康、宗教、民族、政治的信条に関連する様々な少数派集団から参加者を募ることも検討する。はっきりとわかる形で特定の集団に依頼・勧誘する場合は、安全と治安上の懸念から、政治的にデリケートな側面に注意する。

- **社会経済的およびまたは社会的地位** - できれば、世帯収入、利用可能な資産、教育レベルが異なる参加者を対象に含めるようにする。また、力を持つ家族と持たない家族の間では、社会的地位に差がある状況を考察することもできる。
- **地理的位置** - 地理的に特定された地域をサンプルとして抽出し、その地域に典型的な回答を把握する、あるいは、様々な地域をサンプルとし、回答の違いを見つけることができる(例: 都市と地方; 難民と受け入れコミュニティ; キャンプと受け入れコミュニティでの難民グループ)。

#### 3.4.1 サンプルサイズ

一次データ収集のサンプルサイズの設定は、プロセス規模や、大量あるいは少量の一次データを処理・その後分析する能力がチームにあるかどうかによって左右される。一般的な基準として、標準的な規模の文脈分析では、12個程度のデータポイントを目標とするといふ。1個のデータポイントとは、KII1回分、FGD1回分、あるいはアンケート1回分の結果といった、情報源の1つを指す。したがって、データポイント12個であれば、例えば5回のKII、6回のFGD、1回の調査になる。地理的にどんな状況にあるかにもよるが、各村の住民構成が類似している場合はいくつかの村にわたってデータポイントを置くことができるが、考慮すべき要因が多様な場合は、サンプリング手法を修正する場合もある。

必要なデータポイントの数は、(既存のデータにはない、あるいは必要とされるデータがどの程度あるかという)データ・ギャップ次第で決まり、正確で関連性のある情報源がいくつあるか、また、何人が調査に参加してくれるかによっても異なってくる。さらに、状況によっては児童婚について話すことにデリケートな問題やタブーが伴うため、その状況下でできる事をするようになる。サンプルは必ずしも典型的な住民である必要はなく、むしろ収集したデータから洞察が得られ、既存の文献にある仮説を立証または反証できることが求められる。例えば、文献レビューを補完するために多様な思春期の女の子と男の子25人を対象としたFGDを実施することで、調査結果に付加価値を与え、それによりプログラムの改善につなげていくこともできる。

#### 3.4.2 データ収集地点の計画

利用可能な時間、サンプルサイズ、職員の負担を考慮し、1日に実施する活動の数を計画する。必要な休憩時間、昼食、移動時間、調査に伴う全体的な精神的負担等を考慮する。グループ活動の参加者は、1グループにつき6~8人までとする。8人を超えると、データ収集チームが全参加者の意見を収集するのが困難になり、参加者の存在意義が小さくなる。また、グループが大きくなればなるほど、データ収集チームには、個性のぶつかり合いをうまく処理し、全参加者が平等に参加でき、疎外感を抱かないようにする高いスキルが求められる。データ収集活動は、45~60分を厳守し、安全で快適な環境で行うこと。

また、現地の状況に応じ、参加者全員に報酬を支払うこと。例えば、交通費、飲食費等。参加者を1時間以上拘束する予定の場合、例えば終日のワークショップに参加してもらう場合、拘束時間に見合った予算を確保するか、調査方法を修正する必要がある。場合によって、また、参加者を決めるサンプリング方法やデータ収集に費やされる時間によっては、データ収集の前に、参加者の同意を得ておくことが望ましい。これには、データ収集当日の事務処理に要する時間が減り、参加者がプレッシャーを感じずに調査について考えたり質問したりする時間ができるという利点がある。また、事前に話す機会があることで、データ収集のプロセスと今後の流れについて参加者の理解がすすみ、参加者とデータ収集者の間に安全で心地よい空間を作り出すこともできる。ただし、プライバシーや秘匿性の面で、全ての状況でこの方法が適切であるとは限らない。

さらにサポートが必要な場合は、**ツール6. データ収集の参加者例**および**テンプレート9. データ収集計画**を参照のこと。

### 3.5 データ収集チームを訓練する

#### このステップで利用可能な ツールとテンプレート



- **テンプレート10. データ収集研修の議題 - 進行役**
- **テンプレート11. データ収集研修の議題 - 参加者**
- **テンプレート12. 「具体的に」というデータ収集研修用資料**
- **テンプレート13. データ収集者と話し合う際に使う用語**
- **テンプレート14. データ収集研修の概要に関するPowerPointによるプレゼンテーション**

データ収集に先立ち、データ収集チームと作業を行うために十分な時間を確保することが不可欠である。チームのスキルセット(知識と技術に加えて人間的資質も含む)と経験に応じ(**ステップ1.5**と**テンプレート4. 中核チームの特定**を参照)、1日で完了できる場合もあれば、数日を要する場合もある。

#### 研修の目的:

1. チームに、**セーフガーディング・告白の取り扱い・通報義務・同意プロセス**(該当する場合)に関する研修を行う。
2. **進行役としてのスキルを磨き**、児童婚に関するデリケートな話題を扱うためのコツを習得する。
3. **データ収集の目的、調査の質問事項、期待される成果を明確にする**。例えば、児童婚の防止と対応のための統合プロジェクトの設計等。
4. **データ収集計画を見直し**、コミュニティや状況に精通している職員とボランティアから意見を聞く。例えば、作業の流れやタイミング、参加者の要望等。

5. **表現や用語を現地語に翻訳する際のチェック手段を確認する。**
6. **選択した方法の妥当性を確認し**、必要に応じて最終的な変更や修正を加える。
7. **記録するデータの種類と方法を確認する。**
8. **日次調査プロトコル・役割・責任を明確化する。**
9. **スマートフォンやタブレット等、使用するデバイスを確認・テストする。**

#### 3.5.1 研修の開発

データ収集チームのニーズに合った研修を開発する際に役立つツールとテンプレートが添付されている。例えば、データ収集や記録のスキルは既に備えているが、セーフガーディングに関して再確認する必要がある調査機関と協力している場合や、様々なテーマについて詳細な研修が求められるパートナーと協力している場合等が該当する。

チーム内で強化が必要なスキルを把握し、強みと弱みに基づき、調査方法の修正が必要となる場合がある。例えば、FGDを実施する際に、データ収集チームがグループの進行に不慣れ、または自信がない場合、あるいはチームが翻訳者を使っている、あるいは、(例えば英語からポルトガル語、そして現地語など)翻訳を2段階で行う場合でも、6~8人の大人数ではなく、3~4人の少人数グループにすることを検討する。

#### 研修で取り上げるテーマ:

- |                                      |                          |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 調査の紹介                                | <input type="checkbox"/> |
| 児童婚と危機について明らかになっていること(文献レビューでわかったこと) | <input type="checkbox"/> |
| 調査目的                                 | <input type="checkbox"/> |
| 調査の質問項目                              | <input type="checkbox"/> |
| 役割と責任                                | <input type="checkbox"/> |
| <b>データ収集方法とスキル</b>                   | <input type="checkbox"/> |
| サンプリングの枠組み                           | <input type="checkbox"/> |
| データ収集ツール(各ツールを一つずつ確認)                | <input type="checkbox"/> |
| 同意書および情報シート                          | <input type="checkbox"/> |
| 進行役としてのスキル                           | <input type="checkbox"/> |
| 記録係としてのスキル                           | <input type="checkbox"/> |
| 言語と翻訳                                | <input type="checkbox"/> |
| <b>データ収集プロセスと作業の流れ</b>               | <input type="checkbox"/> |
| 日次データ記録プロトコル                         | <input type="checkbox"/> |
| 監督と支援                                | <input type="checkbox"/> |
| <b>セーフガーディング、倫理、照会</b>               | <input type="checkbox"/> |
| <b>データ収集後の次のステップ: データ分析</b>          | <input type="checkbox"/> |
| データ検証ワークショップ                         | <input type="checkbox"/> |
| 分析プロセスの概要                            | <input type="checkbox"/> |
| <b>ツールとアプローチの試験的实施</b>               | <input type="checkbox"/> |

データ収集チームに提供すべきものには、以下が含まれる。

- ノート
- 電子データを収集する場合、タブレットその他機器(充電機器、バッテリー、充電場所等)
- 毎日の実地計画とデータ記録プロトコル(実施地のサンプリング設計、インタビューの目標件数、ツールや方法を概説したもの)
- 監督者の連絡先
- 照会サービスの連絡先
- 印刷された調査資料(調査情報概要、募集文書、同意書、アンケート、インタビューの手引き等) - 電子機器を用いたデータ収集の場合でも、バックアップとして用意すること。
- 地域の地図
- 主導/パートナー組織からの身分証明書(IDカードまたは紹介状)

このセクションの冒頭には、研修の開発に役立つ一連のツールとテンプレートが掲載されており、これには、研修の議案、PowerPointの研修スライド、配布資料が含まれる。

### 3.5.2 ツールと作業手順の試験調査

通常、試験調査は、質問や調査方法の解釈に違いが出ないよう、対象となる母集団と同一または類似の属性や特性を持つ集団を対象として実施される。試験調査に参加する被験者には、あくまでも試験調査であり、データ分析や調査には一切データが使用されないことを十分に説明しなければならない。

だが、児童婚にはデリケートな問題が伴うことを考えると、試験調査をどんな状況下でも倫理にかなったものとする、あるいは必ず実施できるとは限らない。扱い方があまりにも難しい、あるいは倫理的に問題がある場合には、コミュニティを基盤とする組織、女性団体、NGO職員など、現地の組織のメンバーを対象に試験調査を行うことも検討できる。

試験調査では、インタビュー開始前の同意手続きから記録の作成、文書化までのデータ収集の全プロセスを網羅すること。試験調査で得たデータは保存したり分析に使用したりしないこと。これは、あくまでもデータ収集のあらゆる側面についてアプローチと実用性を検証するための、プロセスに関する演習である。

### 3.5.3 データ収集チームに対するサポート

データ収集チームに対するサポートは、研修後も続く。これは継続的なプロセスであり、この点は計画および人員配置に十分反映させること。これは、紛争が続いていて治安上の問題がある状況で特に言えることだ。必要な支援には: 例えば、(電子機器からのアップロードか、調査票やインタビューメモなど印刷物からの確認か、その形を問わず) データが入手される度に定期的に(毎日の場合も)行うモニタリングなど技術的なものや、他には、チームメンバーから、作業の流れや安全性、資料に関するより実用的な支援が求められる場合もある。問題はできるだけ早く特定・対処しなければならない。アプローチの修正や追加研修の実施、あるいは特定のツールの使用中止などを行う必要が生まれる場合もある。

データが監視され、チームが監督下に置かれるなかで、参加者が倫理的な面での不安や疑問を訴えたり、チームから報告されたりしていないか確認するのも重要である。これは、参加者や他のコミュニティ住民が調査テーマ、募集方法、インタビュー場所のプライバシーについて不安を抱く恐れのある調査の初期段階において、特に大切である。予期せぬ問題や悪影響への対処プロトコルは研修に組み込み、コミュニケーションや情報フローを通じて概説する必要がある。そうした事態が発生した際に、報告・対応が直ちに行われるようにするためには、定期的かつ手厚い監督とフォローアップが不可欠となる。チームが簡単に参照できるように、主要なステップや情報を概説した日次データ記録プロトコルを使用するとよい(ツール8. 日次データ記録プロトコルのサンプルを参照のこと)。

指針として、データ収集を開始前に検討すべき、プロトコルと計画に反映すべき主な質問をいくつか挙げる。

- データ収集チームの能力はどの程度か
- 技術チームの研修能力はどの程度か
- データ収集者の選定・研修・支援を行うためにどんな仕組みが必要か
- 調査場所の安全性はどの程度か、また、調査参加者と調査チームにどんなリスクが伴うか
- 調査地域で児童婚はどの程度デリケートな問題であり、また人びとに受け入れられているか、また、例えば、児童婚に関する質問を、思春期の女の子の健康・ウェルビーイング・将来の夢等、もっと一般的なテーマに置き換えるなど、調整は必要か
- リスクと安全性の評価に、どのパートナーや関係者の参加が必要か、また、安全面で状況に変化があった場合の対応プロトコルは策定されているか



Khadra (13歳)は、近く無理やり結婚させられるのではないかと心配する



She Leadsプロジェクトの会議に参加する女の子たち、フリータウン、シエラレオネ

### 3.6 データ収集

#### このステップで利用可能なツールとテンプレート



- テンプレート15. 一次データ報告様式
- テンプレート16. 記録係用手引きシート
- ツール8. 日次データ記録プロトコルのサンプル
- テンプレート. 17-21
  - ▶ テンプレート17. 子どもと思春期の若者向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート18. 18歳未満のこどもの保護者向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート19. 成人(18歳以上)向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート20. 成人向けオンライン同意書および情報シート
  - ▶ テンプレート21. メディア利用同意書

一次データ収集は、現在まだ得られていないエビデンスと情報を見つけて、その空白を埋めるためのものだ。それによって、意思決定の経路や社会文化的慣行、文献レビューで明らかになった矛盾点などを、より深く探ることができる。

しかし、人道支援や避難の状況下では、一次データ収集に多くの困難が伴う。そのため、プロセス全体を通して、私たちの指針である「交差性」、「女の子の視点に立つ」、「害を及ぼさない」、「社会生態学的モデル」から外れることなく、慎重かつ系統立てて熟慮することが求められる。

本ステップでは、一次データ収集期間における主要なツールとヒントを提供する。

#### 3.6.1 データ記録プロトコルの策定

思わぬ事態を避けるため、プロトコルにはデータ記録の全プロセスを必ず決めること。データ収集中は、毎日、開始時と終了時に報告会を行うのが望ましい。こうすることで、このプロセス中の支援と問題解決が確実に進められるようになり、ツールのみならず、安全性や作業の流れ、作業環境の改善にもつながる。また、報告会は、プロセス全体を通じてデータ収集をリアルタイムで向上させるのにも役立つ。**ツール8. 日次データ記録プロトコルのサンプル**を参照のこと。

データ記録プロトコルに、明確化のために以下の点を記載しておくことが良い。

- 誰が、いつ、どのようにデータを記録するのか。例えば、専任の記録係はいるのか。記録は手書きで紙にまとめ、一日の終わりに入力するのか。記録は逐語的に行うのか、それとも要約するのか。その場にいるチームの他のメンバーも観察記録を残すのか。
- 誰がどのようにデータを消去するのか。
- 記録されたデータの翻訳は必要か。誰がいつまでに行うのか。例えば、1週間以内など。
- データ分析プロセスとはどんなものか。データ収集中に行うのか、それとも収集後か。スケジュールと見通しを定める。分析については、別途詳細な作業計画を立てることを強く推奨する。
- 予算は全てに充当できるのか。会場への往復交通費は。参加者の飲食費は。調査チームのモバイルデータカードは。
- 各自の役割は明確になっているか。誰が何を担当するのかを箇条書きで明確にすることも一案だ。
- 情報の流れは明確か。文書化し共有すべき情報は何か、また、それをどのように行うべきか。
- GBVやその他の虐待を告白された場合の対応について、備忘録に記載しておくこともよい。

## ステップ4: データの分析と検証

このステップで利用可能な  
ツールとテンプレート

- **テンプレート22. 社会生態学的領域に基づく分析の枠組みのサンプル**
- **ツール9. 検証ワークショップと内省的分析のヒント**

分析の枠組みは、調査プロセスの最後になって初めて検討されることが多く、その結果、不要なデータを収集し、時間と費用を無駄にする恐れがある。データ収集の前に分析の枠組みを定義しておくことが望ましい。

## 4.1 調査結果の構造化

収集したデータの種類によって分析の種類は異なり、質的及び量的データの分析を行うのが標準的なアプローチである。例えば、質的データとその調査結果の分析としては、文献から導かれる主要テーマや問題を探るテーマ分析を行う。量的データについては、例えば記述統計を用いて調査結果の核になるデータをどう要約してわかりやすく解説するかを検討すべきである。調査方法がもっと複雑な場合は、もっと複雑な仮説を検証するために、推測統計分析を行うことを検討すると良い。

また、社会生態学的側面から情報を整理したり、テーマ別・質問項目別、あるいは特定のセクターや明らかになった主要課題等の他のグループ分けをする方が適している場合もある。また、情報を読み解くために複数の方法を用いることもできる。分析の枠組みを開発する際に、特定の視点に立つ、あるいは(すでに公開されているデータを分析する)二次分析を行うことで、複雑に絡み合う児童婚の問題を解明できたり、アイデンティティ、難民/移民の立場、障害、年齢、ジェンダー等、交差しあう様々な側面に焦点を当てることもできる。

ニーズに最適な枠組みを決定するため、中核チームと様々な形を検討すること。また、以下の質問に答えることで明確になる場合もある。

- 調査の質問に答えを出すのに必要なテーマやデータ項目は何か
- 交差分析に関する分析をどのように行うのが最も有効か、何について調査したいのかー例えば、ジェンダー・LGBTIQ +アイデンティティ・年齢・都市部/地方・人種や民族・障害の有無
- どんなデータ表示方法が最も有用か、表やグラフを使用するか
- 対象読者層が最も容易にアクセスできる方法は何か
- 参加者の言葉の引用は重要か
- データをどう公開するか、どんな制作物を制作するか、それをどう広めるか

## データの整理方法の例

社会生態学的領域
これは、活動への提言を導き出すのに役立つ、複数のセクターにまたがるアプローチを促進するだろう。だが、社会の様々な側面が相互に関連し合っていることや、社会・ジェンダー規範の影響により、情報が重複する可能性もある。
テーマ
これには、データから読み取れる児童婚の主なテーマや要因(意思決定、女の子のセクシュアリティ、生計や機会等)を軸に調査結果を整理することが含まれる。
活動地域・セクター
活動を種類別に整理することで、よく目にする結果や異なる結果を含め、活動ごとにエビデンスを要約することができる。これにより、各セクターが実行可能なことをはっきりと示せる場合がある。
主要課題
これには、児童婚と強制避難・児童婚に伴う拉致と武装集団への勧誘・子どもが家長を務める家庭・結婚した女の子等、主要課題に基づく具体的な議論が含まれる場合がある。これは、特に啓発と提言戦略の策定を目的とする文脈分析に役立つ可能性がある。
調査の質問項目
調査の質問に次々と答える方法は、調査結果を簡潔に文書化する際に役立つ場合がある。これは、政策立案者やその他影響力のある意思決定者が質問を設定した場合に特に有用である。
独自の分析の枠組みを作ろう!
関心のある分野に基づいて、独自の分析の枠組みを作成し、それを社会生態学的モデルと併用することもできる。例えば、(プランがグローバル変化の理論的根拠にしている)セオリー・オブ・チェンジやプログラム戦略に結び付けることもできる。

## 4.2 検証ワークショップと内省的分析

最初の調査結果の草案ができたなら、その内容をよく理解している集団と検討することが有効である。その集団とは、コミュニティ住民自身、または対応の一環として実際に活動に従事している者や支援団体である。調査結果の検証・考察を目的としたワークショップ(または一連のワークショップ)を設けることで、調査結果に一層深い意義が生まれ、深く掘り下げることができる。また、これは、関係者に質問し、一緒に分析の精度を上げる機会ともなる。さらに、これらのワークショップを通して、その文脈で行われている児童婚への取り組みが抱える課題に対して、提言や解決策を導き出せる場合もある。一方、ワークショップを単に調査結果や結論の正当性を認める(または認めない)場として開くこともできる。関係者が分析プロセスや解決策の特定をどの程度重視するか見極めることも可能だ。調査結果が事実に基づいたもので、解決策が最も影響を受けている、または対応に関わっている人から導き出されたものになるよう、こうしたワークショップの活用を推奨する。

ワークショップは、過度にフォーマルなものである必要はない(特にコミュニティ住民が威圧感を抱く恐れがある)。彼らがリラックスして、これまで何をし・何を得たかに注目できるようにする。これにより、特に調査結果をコミュニティグループと一緒に考察・質問するなかで難しい局面が生じた場合でも、最終的な結論を導く余裕が生まれる。

データ収集と同様、コミュニティワークショップに参加することで、異なる集団に及ぼすリスクを考慮すること。性別、年齢、その他属性でグループを分けて小規模なワークショップを開催することが、意見を聞き出すのに最も適している場合がある。

コミュニティグループに対しては、情報量で圧倒されないように、提示する内容を制限し、コミュニティ住民の関心の高いいくつかの主要分野に焦点を絞ると良い。特に、社会生態学的モデルの個人・家族・コミュニティの各レベルが抱える課題にどう取り組むべきかに関する提言に活かせる意見を取り入れることに注力すること。専門的な調査用語ではなく、わかりやすい言葉を心がけること。特定の用語や専門用語は事前に確認すること。

ワークショップの主な目的は:

- 調査結果は参加者の現実と経験を反映しているか
- ジェンダー、年齢、社会経済的地位、難民/受け入れコミュニティ等、交差性に基づく見解の相違はあるか
- 意見の分かれる、あるいは不正確な点はないか、進行役は不正確な理由を追求できるか、特定の人へのみ当てはまる調査結果はあるか
- 不足している、または予想外なものはあるか、その理由は

ワークショップの議題を検討するための追加の指針は、**ツール9. 検証ワークショップと内省的分析のヒント**を参照のこと。

## ステップ5: 公開・発信

このステップで利用可能な  
ツールとテンプレート

- **テンプレート23. 最終版文脈分析報告書概要**

初期調査の結果の検証後、文脈分析報告書を仕上げ、完成させる。検証期間・校正・デザイン・必要に応じて翻訳などを盛り込んだ作業計画を策定すること。また、調査結果の活用目的に即した一連の広報活動の一部として、配布しやすい簡潔な概要版/パワーポイントの準備を検討することもできる。

報告書および関連成果物をそれぞれの状況で調整役となっている組織と共有し、他の人も調査結果を活用でき、また提言や行動がプログラムや提言活動に効果的に取り入れられるよう促すことが望ましい。

**安全が保障されるならば**、影響下に置かれている人びとに対して私たちセクターが継続的に果たすべき説明責任の一部として、**最終的な調査結果は参加したコミュニティに公表されるべきである**。これは、長い報告形式である必要はなく、コミュニティとの話し合いや対話など、彼らにとってアクセスしやすい方法で実施する必要がある。

コミュニティと共有することにはメリットがあり、例えば、

- 調査結果は、人びとの脆弱性と効果的な取り組みの必要性を認識させることにつながる
- 結果の共有は、取り組みに必要なリソースの増加と、プログラムや政策立案者の優先順位付けに影響を与える可能性がある
- 調査結果は、コミュニティ組織が自らの活動に対する意識を高め、提言活動、連携づくり、資金調達に必要なエビデンスの構築につなげられるため、コミュニティ組織にとって有益なものになり得る

しかし、調査結果を公に共有することは、特に難民・IDP・不法移民・人種/民族/宗教的少数派といった疎外された集団にとってリスクを伴う可能性もある。調査結果によって、現地では違法とみなされる、あるいは「有害な文化的慣習」の一例として烙印を押されかねない行いをしている難民や避難民コミュニティが特定される恐れがある。

言い換えるなら、現地コミュニティと、調査員やスポンサーの懸念や優先事項は必ずしも同一線上にあるとは限らない。これらの問題は、結果を共有する段階で、コミュニティ・リーダー、市民社会組織、コミュニティ代表者と話し合わなければならない。

# セクションC: ツールとテンプレート

児童婚に関する文脈分析に役立つツールキットを2種類の添付ファイルにまとめ、2つのカテゴリーに分けている

## ツール

これらは、文脈分析を実践するための追加の指針、考慮事項、またはヒントとして役立つ。例えば、特定のステップや下位ステップに関するチェックリストやより詳細な情報。

## テンプレート

さらに手を加えたり、参考例として活用できるように、すぐに使える形で掲載している。例えば、表やテンプレートはすぐに使えるように空欄にしてある。

### ステップ1: 文脈分析の対象範囲を決定する

- ツール1. 「知るべきこと」枠組み
- ツール2. 調査質問例
- ツール3. 予算に関する考慮事項
- テンプレート1. TOR
- テンプレート2. 活動計画
- テンプレート3. 予算
- テンプレート4. 中核チームの特定

### ステップ2: 児童婚に関する文献レビューの実施

- テンプレート5. 文献レビュー検索用語
- テンプレート6. 文献レビュー管理表

### ステップ3: 一次データの収集

- ツール4. 一次データ収集における倫理的配慮
- ツール5. 参加型データ収集・分析方法の概要
- ツール6. データ収集の参加者例
- ツール7. 思春期の若者と対話する際の重要事項
- テンプレート7. 調査プロトコル
- テンプレート8. データ収集のセーフガーディングとリスク評価
- テンプレート9. データ収集計画

### 3.5 データ収集チームを訓練する

- テンプレート10. データ収集研修の議題 – 進行役
- テンプレート11. データ収集研修の議題 – 参加者
- テンプレート12. 「具体的に」というデータ収集研修用資料
- テンプレート13. データ収集者と話し合う際に使う用語
- テンプレート14. データ収集研修の概要に関するPowerPointプレゼンテーション

### 3.6 データ収集

- テンプレート15. 一次データ報告様式
- テンプレート16. 記録係用手引きシート
- ツール8. 日次データ記録プロトコルのサンプル
- テンプレート17-21: 子ども、保護者、成人(職員を含む)向けの同意書/承諾書(黙諾を含む)のサンプル(オンライン用)
  - ▶ テンプレート17. 子どもと思春期の若者向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート18. 18歳未満のこどもの保護者向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート19. 成人(18歳以上)向け情報シートおよび同意書
  - ▶ テンプレート20. 成人向けオンライン同意書および情報シート
  - ▶ テンプレート21. メディア利用同意書

### ステップ4: データの分析と検証

- テンプレート22. 社会生態学的側面に基づく分析の枠組みのサンプル
- ツール9. 検証ワークショップと内省的分析のヒント

### ステップ5: 公開・発信

- テンプレート23. 最終版文脈分析報告書概要



## 詳細な説明とリソース

以下の一覧は、文脈分析に役立つ主要なリソースと追加のリソース、手引きをまとめたものである。

発行者	リソースとリンク
<b>児童婚に特化</b>	
WRC、UNFPA、ユニセフ、 Johns Hopkins	A Practitioner's Guide to the Ethical Conduct of Research on Child Marriage in Humanitarian Settings
UNFPA、ユニセフ	Addressing Child Marriage in Humanitarian Settings: Technical guide from the UNFPA-UNICEF Global Programme to End Child Marriage
Save the Children	Addressing Data Gaps on Child, Early and Forced Marriage in Humanitarian Settings
World Vision	A Guide to Addressing Child Marriage
Girls not Brides	Girls' sexuality and child, early, and forced marriages and unions: A conceptual framework
More than Brides	A Child Marriage Practitioners' Guide to Understanding New Findings on Girls' Agency and Decision-Making
GBV AoR Helpdesk	A summary of good practice approaches in addressing child marriage in emergency contexts, as well as an annotation of programme resources and tools
UNFPA、ユニセフ	Fighting the Odds, Catalyzing Change: A Strategic Approach to Ending the Global Problem of Child Marriage
<b>児童婚に限らない</b>	
プラン・インターナショナル	The Adolescent Programming Toolkit
Save the Children	The Gender and Power Analysis Toolkit (GAP)
プラン・インターナショナル	Guidelines: children and young people with disabilities
CARE International	Rapid Gender Analysis
Asia Pacific Forum on Women, Law and Development	Feminist Participatory Action Research: Our Journey from Personal Change to Structural Change (2014)

# 参考文献

1. Plan International (2020). Adolescent Programming Toolkit Guidance and tools for adolescent programming and girls' empowerment in crisis settings, London
2. ActionAid (2022). Building power together: a girl-led research project
3. Save the Children (2022). Global Girlhood Report 2022: Girls on the Frontline
4. Plan International (2018). Adolescent Girls in Crisis: experiences of risk and resilience across three humanitarian settings
5. Plan International (2020). Adolescent Girls in crisis: Voices from the Sahel
6. The Alliance for Child Protection in Humanitarian Action (2019). Minimum Standards for Child Protection in Humanitarian Action
7. United Nations Children's Fund (UNICEF) and United Nations Population Fund (UNFPA) (2021). Addressing Child Marriage in Humanitarian Settings: Technical Guide
8. Girls Not Brides, UNICEF, and UNFPA (2022). Research Spotlight: Successful multisectoral and multilevel approaches
9. UNFPA and UNICEF (2019). Technical Note on Gender-Transformative Approaches in the Global Programme to End Child Marriage Phase II: A Summary for Practitioners
10. UNICEF (2021). Towards Ending Child Marriage, Global trends and profiles of progress
11. Save the Children (2021). Preventing and Responding to Child, Early, Forced Marriage and Unions, Technical Guidance
12. UNFPA, UNICEF, Women's Refugee Commission and Johns Hopkins University (2021). A practitioner's guide to the ethical conduct of research on child marriage in humanitarian settings
13. Paré, G. and Kitsiou, S. (2017). "Chapter 9 Methods for Literature Reviews", in Lau F. and Kuziemsky, C. (eds), Handbook of eHealth Evaluation: An Evidence-based Approach - NCBI Bookshelf, (accessed 27 September, 2023)
14. World Health Organization (WHO) (2007). WHO ethical and safety recommendations for researching, documenting and monitoring sexual violence in emergencies,
15. Plan International (2021). Child, Early and Forced Marriage and Unions: Policy Brief October 2020, London
16. Compact for Young People in Humanitarian Action, Data Collection and Age Disaggregation for young people in humanitarian settings

# 用語集

## CEFMU [15]

- **児童婚**とは、正式な結婚であれ事実婚であれ、当事者の少なくとも一方が18歳未満であり、そのためきちんとした同意の得られていない結婚を指す。年齢その他の要因で子どもは意見や提案を聞いてその内容を肯定したり同意する能力が低いため、児童婚の大部分は強制されたものだと考えられている。
- **早すぎる結婚**は「児童婚」と同じ意味で使われることが多いが、18歳未満でも、あるいは結婚すれば、「成年(大人とみなされる年齢)」に達すると考えられている国々で、18歳未満がする結婚、または婚姻関係を指す。また、当事者双方が18歳以上であっても、身体面・情緒面・性的・心理社会的な発達レベル、あるいは人生の選択肢に関する情報不足など様々な理由で結婚に同意する準備が整っていない、あるいは同意できない場合の結婚を指すこともある。
- **強制結婚**は、年齢に関係なく、当事者の一方または双方が、社会や家族から強く強制あるいは圧力をかけられて、自由意思に基づく完全な同意をしていない、あるいはできない状態で結婚または婚姻関係を結んだ、また結婚から逃れることができない状態を指す。強制結婚には、身体・心理・経済的な強制が伴うことがあり、人身取引や見合い結婚、児童婚等、様々な状況で起こり得る。強制結婚の被害者は成人・未成年を問わない。
- **婚姻**とは、法律上は結婚しているとは言えないが事実上結婚と同等である非公式な結婚または自由な婚姻を指す。このような婚姻は、国や宗教当局によって正式なものとされない場合が多いため、その実数を把握して十分なデータを収集することは困難である。こうした婚姻の呼称や説明には、合意婚または自己決断婚、**早期婚姻**、**同棲**等、様々な用語が使われている。
- **「結婚歴のある」**とは、非公式な結婚や婚姻を含め、結婚を経験したことのある女の子または男の子を指す。現在結婚している女の子または男の子、夫と死別した女の子、離婚あるいは別居している女の子または男の子も含まれる。

本ツールキットでは、「**児童婚**」という用語は、当事者の少なくとも一方が18歳未満であるあらゆる結婚、正式/非公式な婚姻、同棲を指すために使用される。児童婚の大多数は、力関係が働いた、あるいは他に選択肢が無いために強制されたものであると考えられている。

## 思春期の若者 [1、16]

- 思春期は子どもから大人への移行期間であり、この時期にユースは身体・心・世界の見方がさまざまな形で急激に変化する。
- 思春期の若者は、保護者や家族からの自立を求める一方で同世代の仲間との絆を深めていく。ジェンダー規範は幼少期から形作られていくが、ユースの役割と期待にさらに大きく影響するという点で、思春期はきわめて大きな意味を持つ。思春期の若者が経験する変化は世界共通だが、思春期に対する理解や定義は文化的背景によって異なる。





## プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と世界中の女の子の平等を推進するため、日々取り組みを続けています。私たちは、全ての子どもの力と可能性があると信じていますが、現実には貧困、暴力、排除、差別によって抑圧されていることも少なくありません。そして、その影響を最も受けているのは女の子たちです。

独立した開発・人道団体として、プラン・インターナショナルは、子ども、思春期、ユース、支援者、パートナーとともに、女の子と弱い立場に置かれた子どもたちが直面している課題の根底にある原因に取り組んでいます。生まれてから大人になるまで、子どもたちの権利を守り、彼らが自らの力で危機や逆境に備え、対応できるよう支援するため、私たちはネットワークと知見を活かして、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進しています。

85年以上にわたり、子どもたちのために共に取り組んできたパートナーと協力の下、私たちは世界80カ国以上で活動を続けています。

誰もが平等な世界の実現にむけて、歩みを止めずに進んでいきます。

### お問い合わせ

- facebook.com/planinternational
- twitter.com/planglobal
- instagram.com/planinternational
- linkedin.com/company/plan-international
- youtube.com/user/planinternationaltv

Plan International  
International Headquarters  
Dukes Court, Duke Street, Woking,  
Surrey GU21 5BH, United Kingdom  
Tel: +44 (0) 1483 755155  
Fax: +44 (0) 1483 756505  
email: [plan-international@planinternational.org](mailto:plan-international@planinternational.org)

## UNHCRについて

### 私たちが目指すもの

故郷を追われ国を失った、あるいは避難を余儀なくさせられた全ての人が、よりよい未来を築くことができる世界。

### 私たちについて

UNHCRは、難民、強制避難を余儀なくされたコミュニティ、無国籍の人びとの命を救い、権利を守り、よりよい未来を築くことに専心する国際機関である。

### 私たちの活動

UNHCRは、紛争や迫害で故郷を追われた人びとの保護に向けた国際的な取り組みを主導している。私たちは、シェルターや食料、水といった救命支援物資の提供、基本的人権の保護、そして人びとが「家」と呼べる安全な場所を持ち、そこでよりよい未来を築いていくために必要な解決策の策定を行っている。また、無国籍の人びとに国籍が付与されるよう取り組んでいる。

### 私たちの重要性

毎年、紛争や迫害から逃れるために故郷を捨てるを得ない男性、女性、子どもは何百万人にも上る。私たちは、避難を余儀なくされた、また国籍を奪われた人びとに対する支援組織として世界をリードしている。世界130カ国以上で活動する私たちは、専門知識を活かして、2023年9月時点で1億1,400万人に上る強制避難民と無国籍者の保護とケアに取り組んでいる。

### お問い合わせ

- twitter.com/refugees
- facebook.com/UNHCR
- instagram.com/refugees/
- youtube.com/c/unhcr
- tiktok.com/@refugees
- linkedin.com/company/unhcr/

United Nations High Commissioner for Refugees  
Case Postale 2500, CH-1211 Genève 2 Dépôt, Suisse  
Phone: +41 22 739 8111 (automatic switchboard)

推奨引用: プラン・インターナショナルとUNHCR, ツールキット: 危機下および強制避難の状況下で早すぎる結婚(児童婚)が行われる背景・文脈に関する分析 (2024年)、  
<https://plan-international.org/publications/context-analysis-child-marriage-in-crisis/>  
にて入手可能。2024年発行。文章© プラン・インターナショナルとUNHCR